

# 第4章 環境に関するアンケート結果(抜粋)

## 第1節 市民アンケート

### 1. 調査の概要

#### (1) 調査の仕様

仕様項目	仕 様
調 査 対 象 者	18 歳以上の市民 2,000 人
標本抽出方法	旧町村 6 地区の人口に配慮した比例配分に応じて、住民基本台帳から無作為抽出
調 査 方 法	郵送による配布・回収
調 査 期 間	平成 21 年 10 月 1 日から 10 月 14 日

#### (2) 回収結果

回収数 907 (回収率 45.4%)

#### (3) 本報告書中の記号について

(S A)・・・単一回答 (Single Answer) の略。選択回答は 1 項目のみ。

(M A)・・・複数回答 (Multi Answer) の略。回答する選択肢の数に制限がある。  
(一部回答を限定しているものもある。)

n・・・回答者数 (number) をあらわす。「n = 100」は、回答者数が 100 人ということ。

質問には単一回答 (S A) と複数回答 (M A) の設問があり、複数回答の場合は合計値が 100%にならない場合があります。

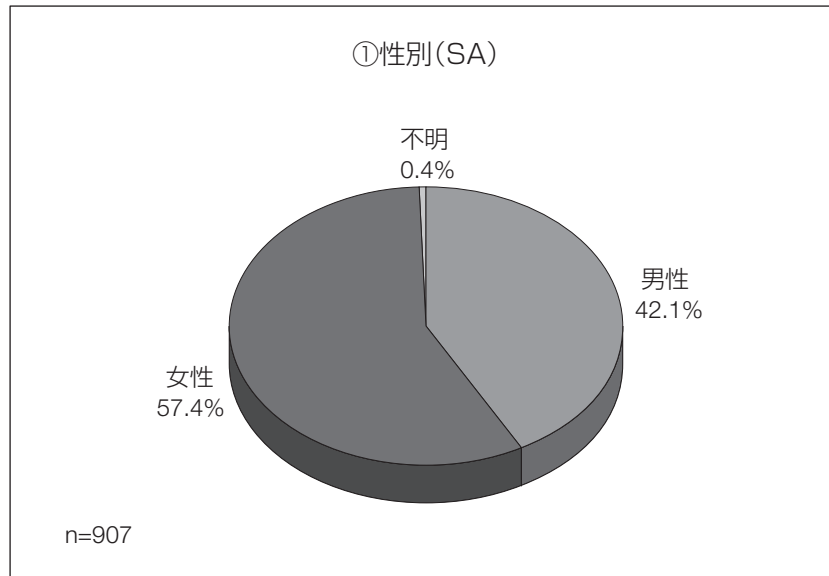
アンケート結果の数値は小数点第 2 位を四捨五入しており、単一回答であっても合計が 100%にならない場合があります。

## 2. 調査結果

### (1) 回答者の属性

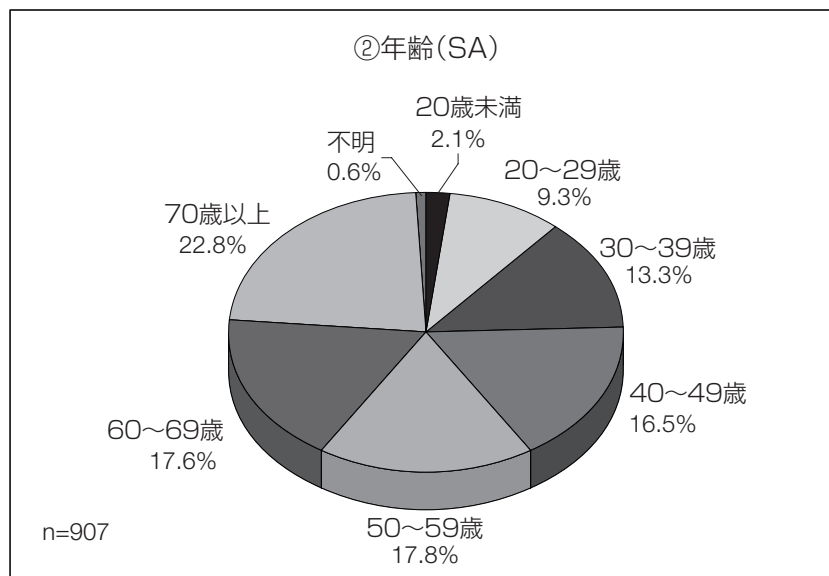
#### ① 性別 (SA)

回答者の性別は、「男性」42.1%、「女性」57.4%となっています。



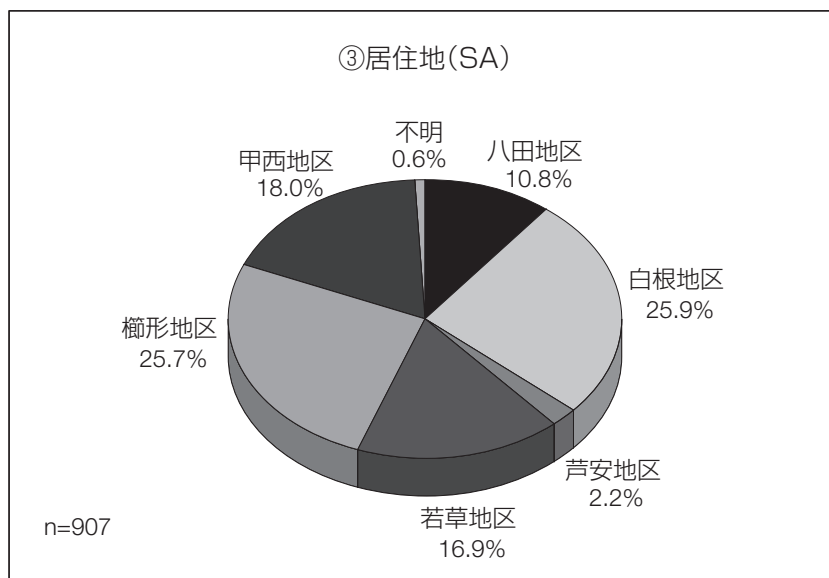
#### ② 年齢 (SA)

回答者の年齢は、「70歳以上」が22.8%と最も高く、次いで「50～59歳」(17.8%)、「60～69歳」(17.6%)となっています。



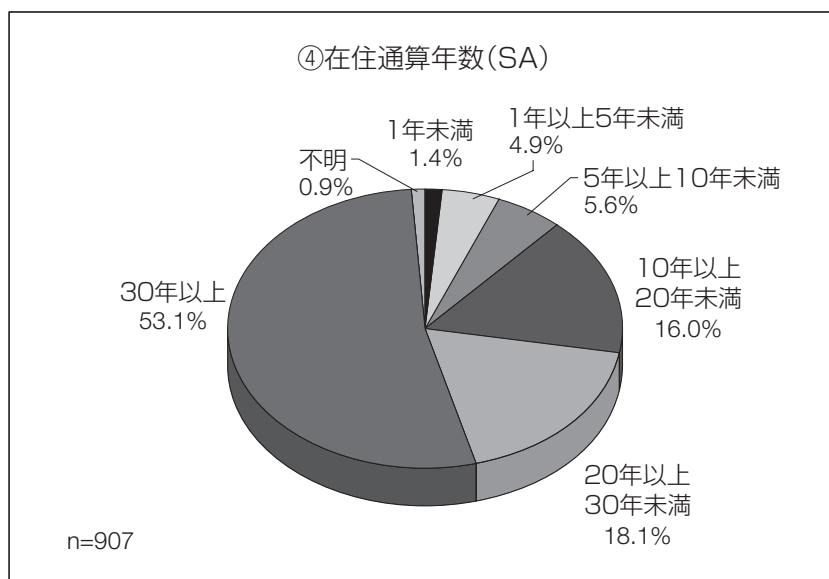
### ③ 居住地 (SA)

回答者の居住地は、八田地区 10.8%、白根地区 25.9%、芦安地区 2.2%、若草地区 16.9%、櫛形地区 25.7%、甲西地区 18.0%となっています。



### ④ 在住通算年数 (SA)

回答者の南アルプス市内への在住通算年数は、「30年以上」が53.1%と最も高く、次いで「20年以上30年未満」(18.1%)、「10年以上20年未満」(16.0%)となっています。



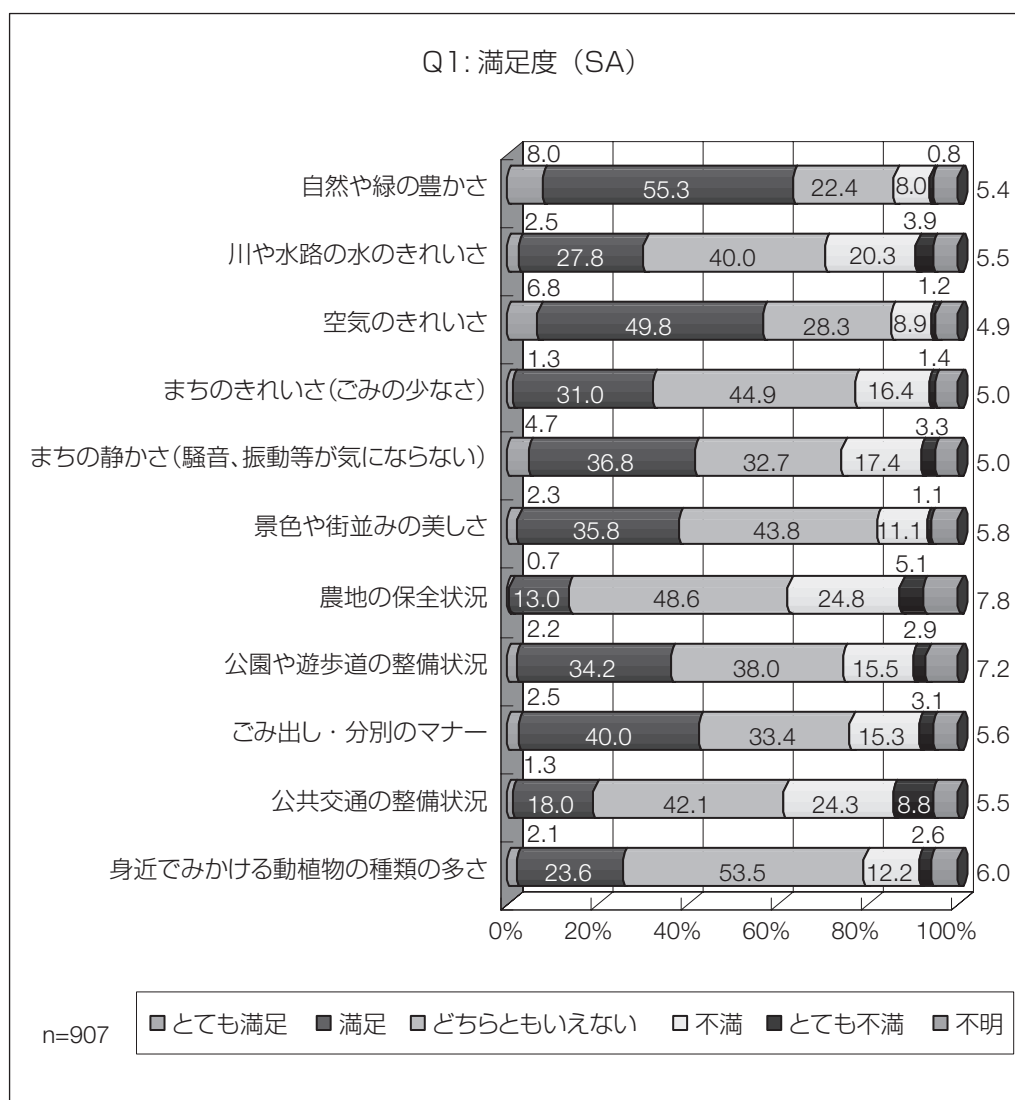
## (2) アンケート結果

### 問1 周辺環境に関する満足度（SA）、環境の変化（SA）

#### 【満足度】

住まい周辺の環境に関する満足度について、「とても満足」と「満足」を合わせた割合は、「自然や緑の豊かさ」が63.3%と最も高く、次いで「空気のきれいさ」（56.6%）、「ごみ出し・分別のマナー」（42.5%）となっています。

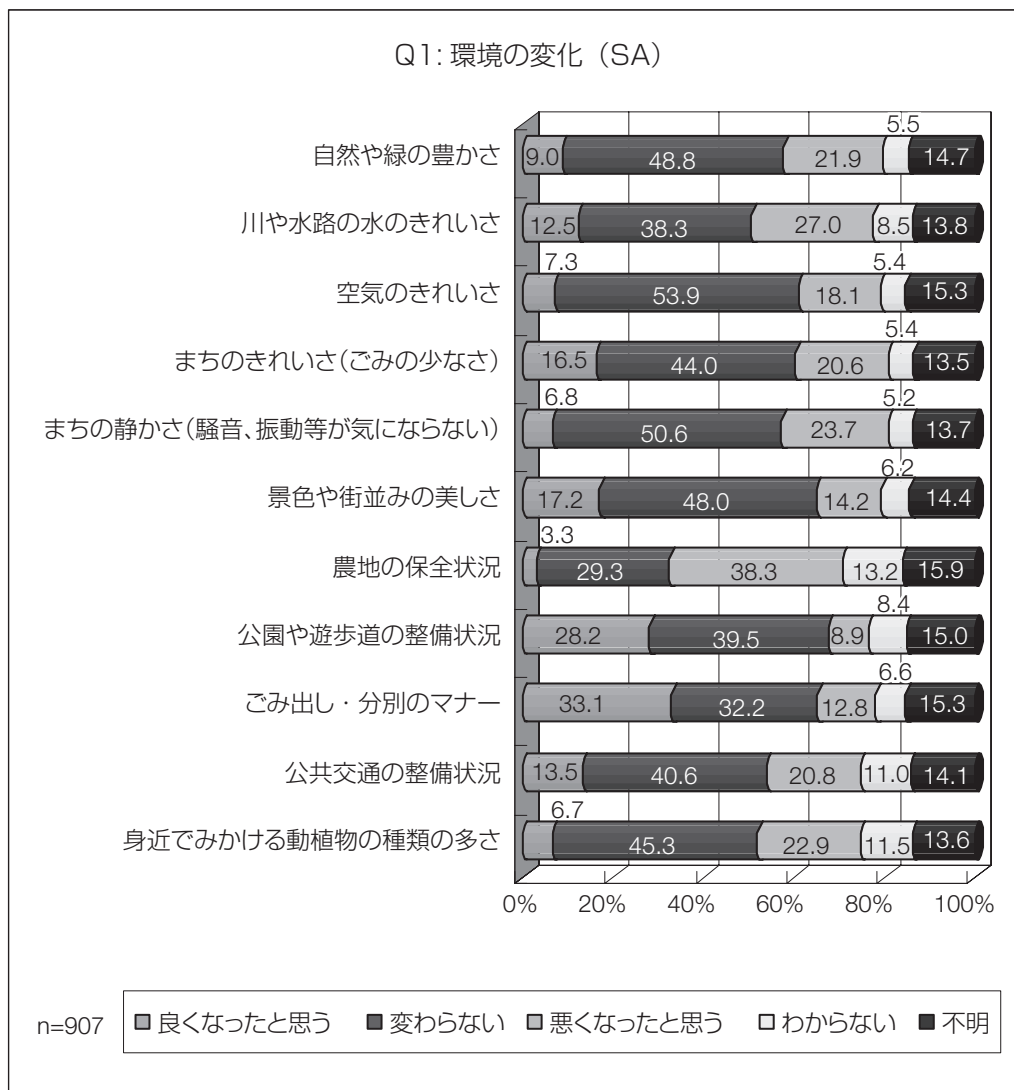
また、「とても不満」と「不満」を合わせた割合が高いのは、「公共交通の整備状況」（33.1%）、「農地の保全状況」（29.9%）となっています。



【環境の変化】

10年前と比べた環境の変化について、「良くなったと思う」は「ごみ出し・分別のマナー」が33.1%と最も高く、次いで「公園や遊歩道の整備状況」(28.2%)となっています。

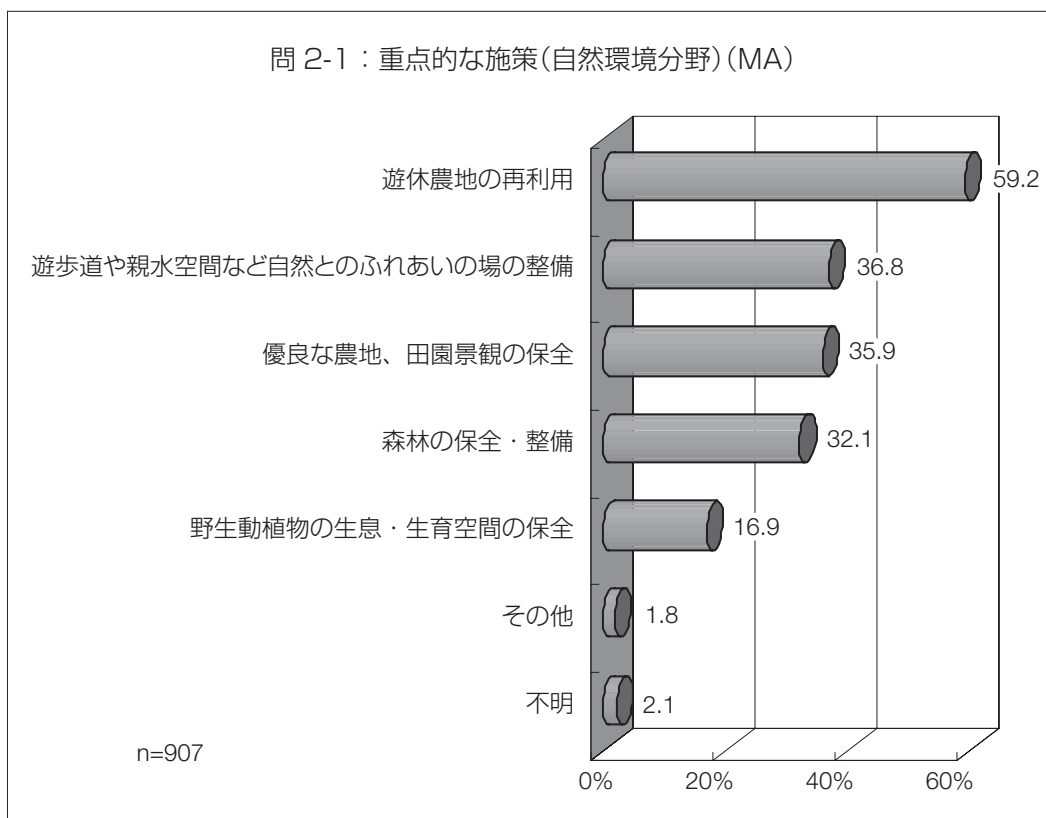
また、「悪くなったと思う」は「農地の保全状況」が38.3%と最も高く、次いで「川や水路の水のきれいさ」(27.0%)となっています。



## 問2 重点的に進めるべき施策（MA）

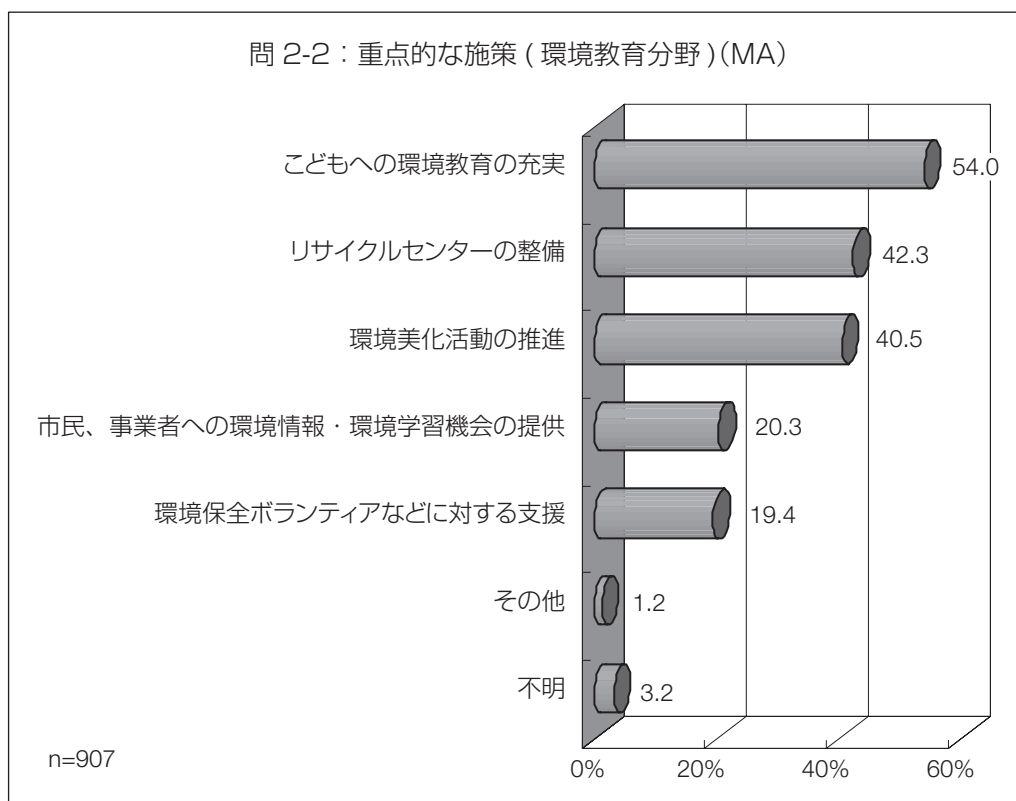
### 【自然環境分野】

自然環境分野での重点的な施策については、「遊休農地の再利用」が59.2%と最も高く、次いで「遊歩道や親水空間など自然とのふれあいの場の整備」（36.8%）、「優良な農地、田園景観の保全」（35.9%）となっています。



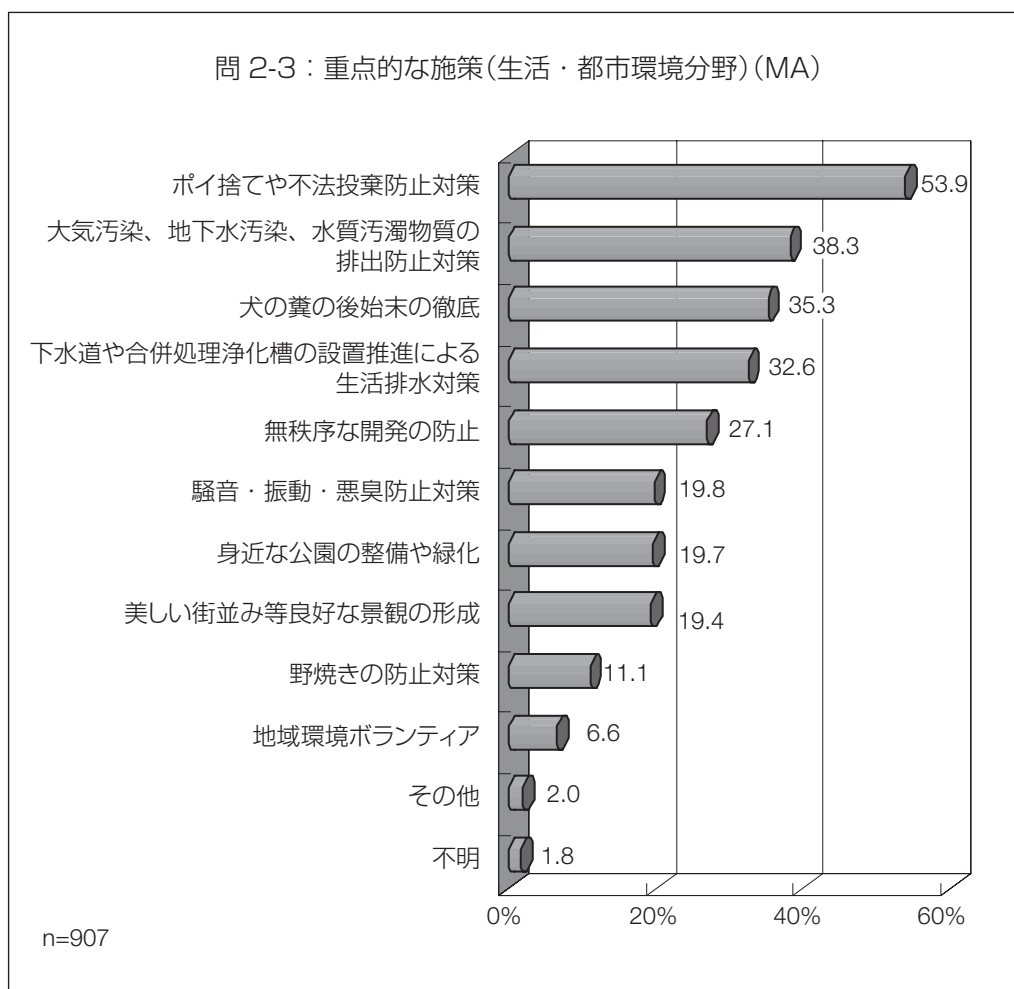
### 【環境教育分野】

環境教育分野での重点的な施策については、「こどもへの環境教育の充実」が54.0%と最も高く、次いで「リサイクルセンターの整備」(42.3%)、「環境美化活動の推進」(40.5%)となっています。



### 【生活・都市環境分野】

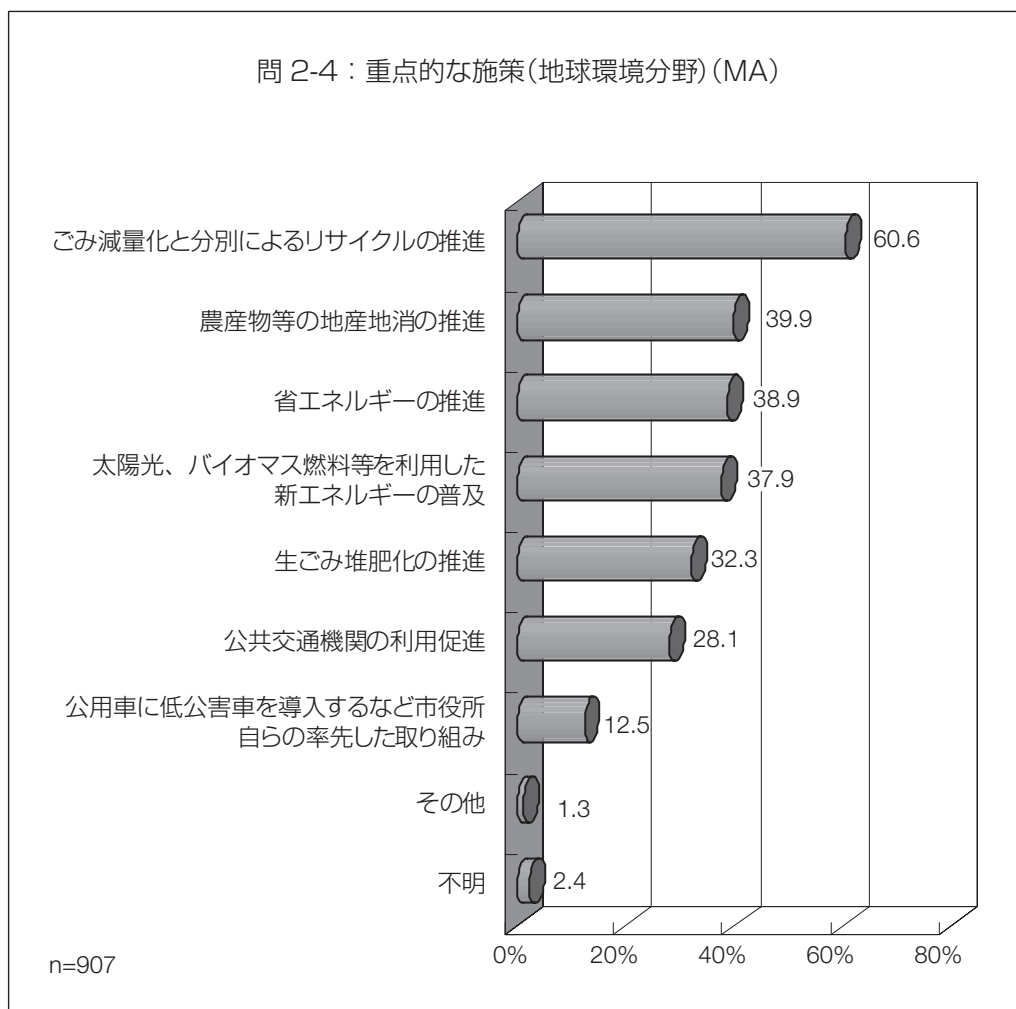
生活・都市環境分野での重点的な施策については、「ポイ捨てや不法投棄防止対策」が53.9%と最も高く、次いで「大気汚染、地下水汚染、水質汚濁物質の排出防止対策」(38.3%)、「犬の糞の後始末の徹底」(35.3%)となっています。





### 【地球環境分野】

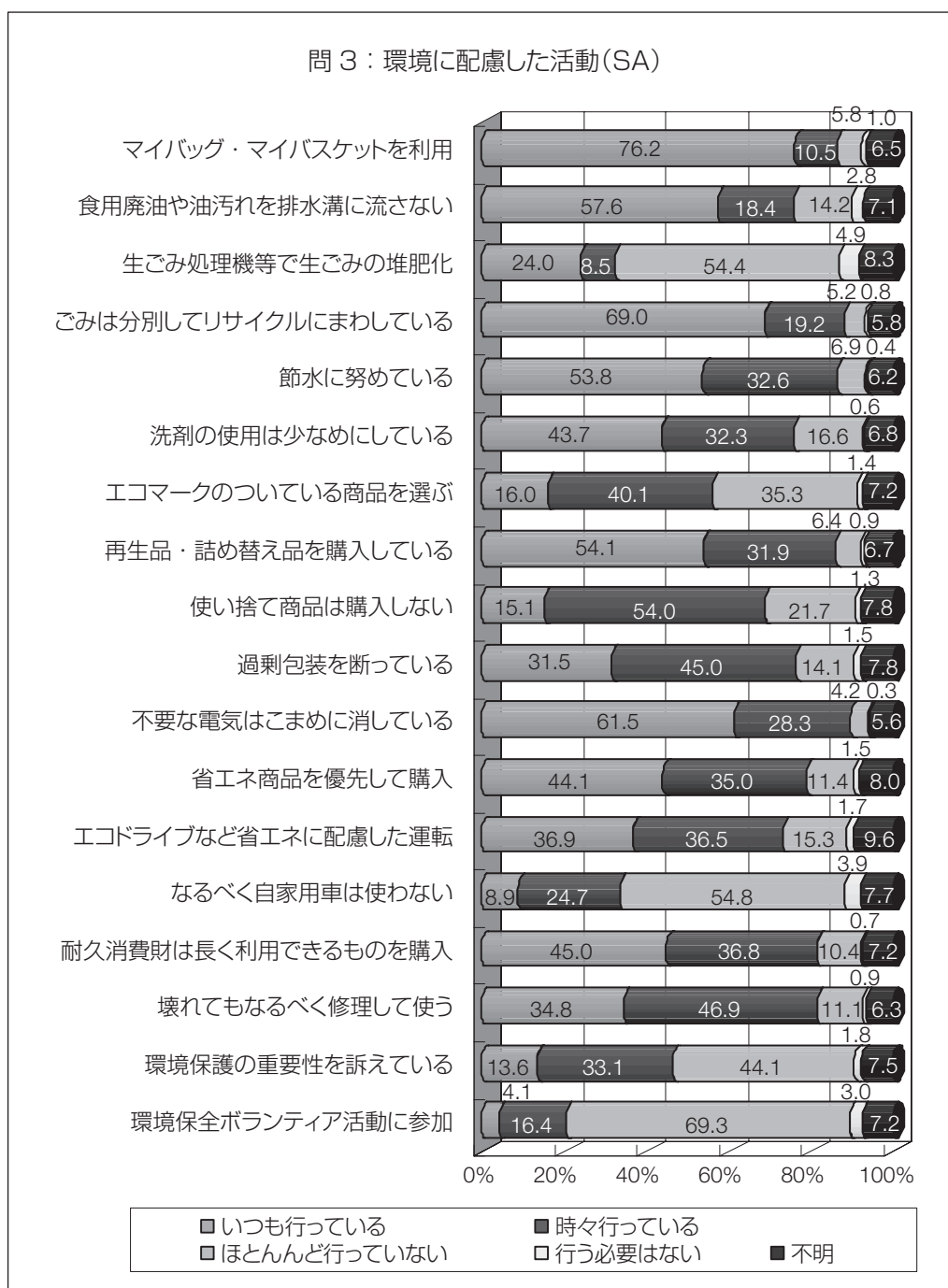
地球環境分野での重点的な施策については、「ごみ減量化と分別によるリサイクルの推進」が60.6%と最も高く、次いで「農産物等の地産地消の推進」(39.9%)、「省エネルギーの推進」(38.9%)となっています。



### 問3 環境に配慮した活動（SA）

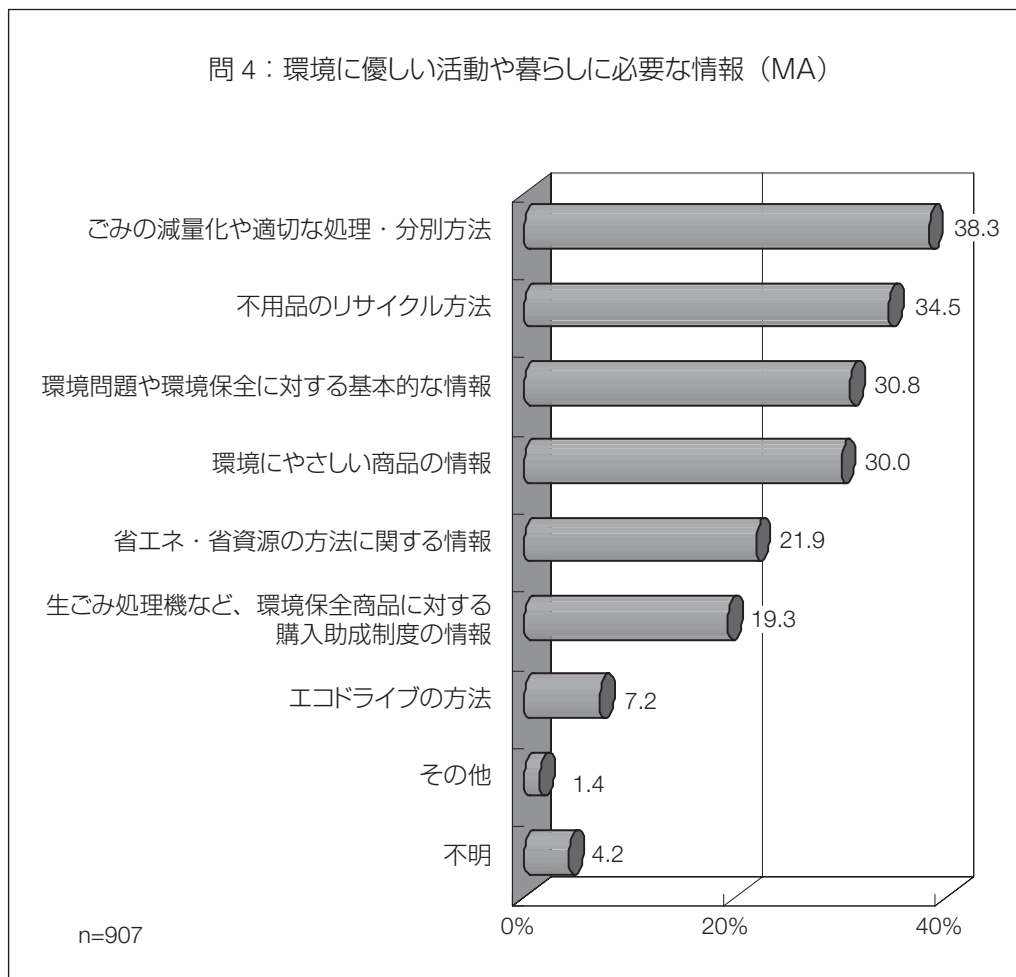
生活で取り組んでいる環境に配慮した活動状況について、「いつも行っている」「時々行っている」を合わせた割合は、「不要な電気はこまめに消している」が89.8%と最も高く、次いで「ごみは分別してリサイクルにまわしている」（88.2%）、「買物ではマイバッグ・マイバスケットを利用している」（86.7%）となっています。

また、「行う必要はない」「ほとんど行っていない」を合わせた割合は、「環境保全ボランティア活動に参加している」が72.3%と最も高くなっています。



#### 問4 環境に優しい活動や暮らしに必要な情報（MA）

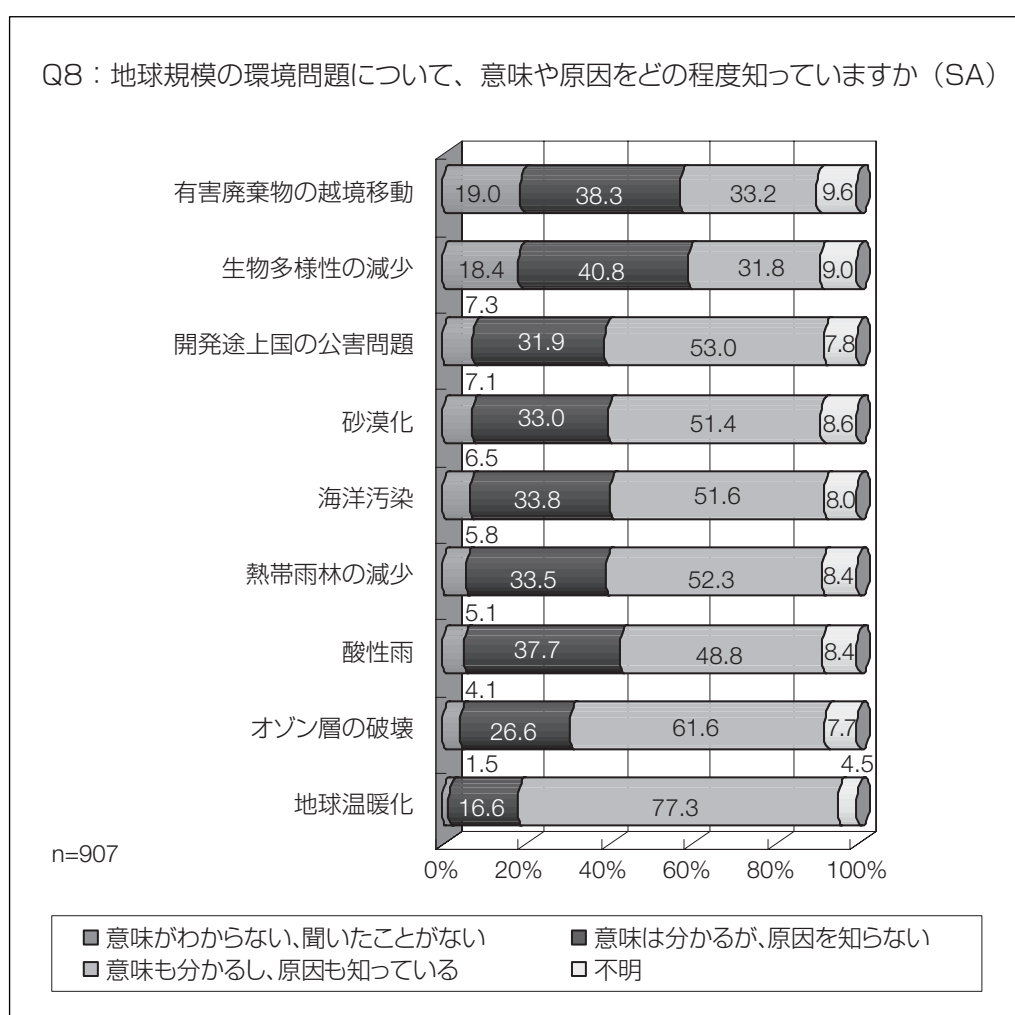
環境に優しい活動や暮らしに必要な情報は、「ごみの減量化や適切な処理・分別方法」が38.3%と最も高く、次いで「不用品のリサイクル方法」（34.5%）、「環境問題や環境保全に対する基本的な情報」（30.8%）となっています。



## 問8 地球規模の環境問題についての認識（SA）

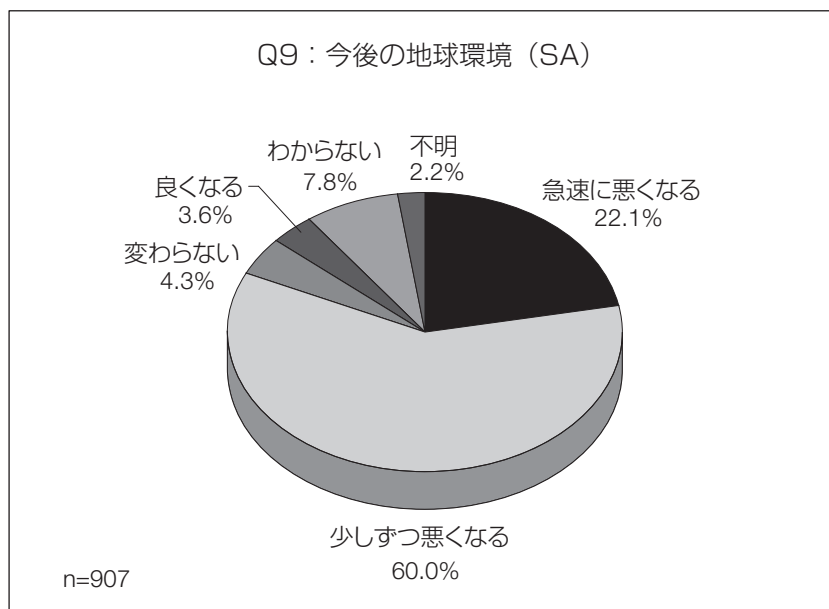
地球規模の環境問題についての意味や原因の認識度について、「意味も分かるし、原因も知っている」は「地球温暖化」が77.3%と最も高く、次いで「オゾン層の破壊」(61.6%)、「開発途上国の公害問題」(53.0%)となっています。

また「意味が分からない、聞いたことがない」は「有害廃棄物の越境移動」が19.0%と最も高く、次いで「生物多様性の減少」(18.4%)となっています。



### 問9 今後の地球環境について (SA)

地球環境は今後どうなると考えますかという設問に対しては、「少しずつ悪くなる」が60.0%と最も高く、次いで「急速に悪くなる」(22.1%)、「わからない」(7.8%)となっています。



## 第2節 事業者アンケート

### 1. 調査の概要

#### (1) 調査の仕様

仕様項目	仕 様
調 査 対 象 者	市内に事務所・事業所があり従業員数 10 名以上の 200 社
標本抽出方法	対象事業者から層化無作為抽出
調 査 方 法	郵送による配布・回収
調 査 期 間	平成 21 年 10 月 1 日から 10 月 14 日

#### (2) 回収結果

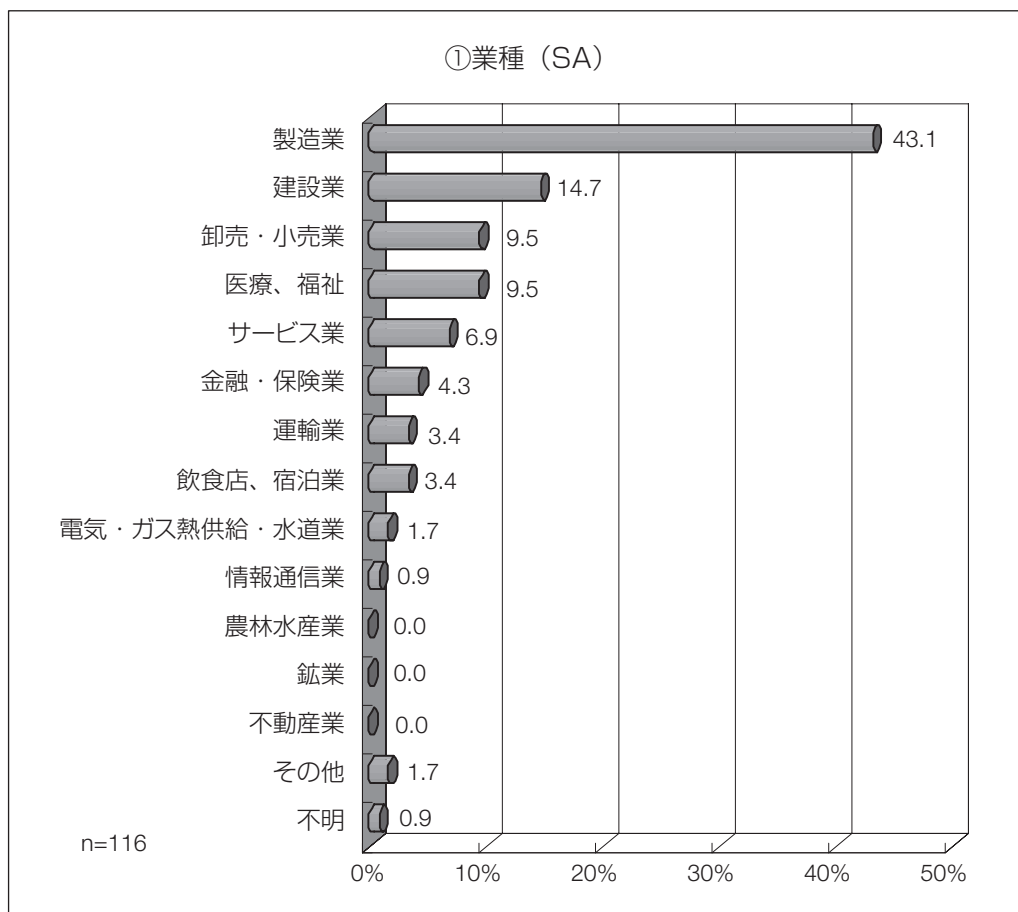
回収数 116 (回収率 58.0%)

## 2. 調査の結果

### (1) 回答者の属性

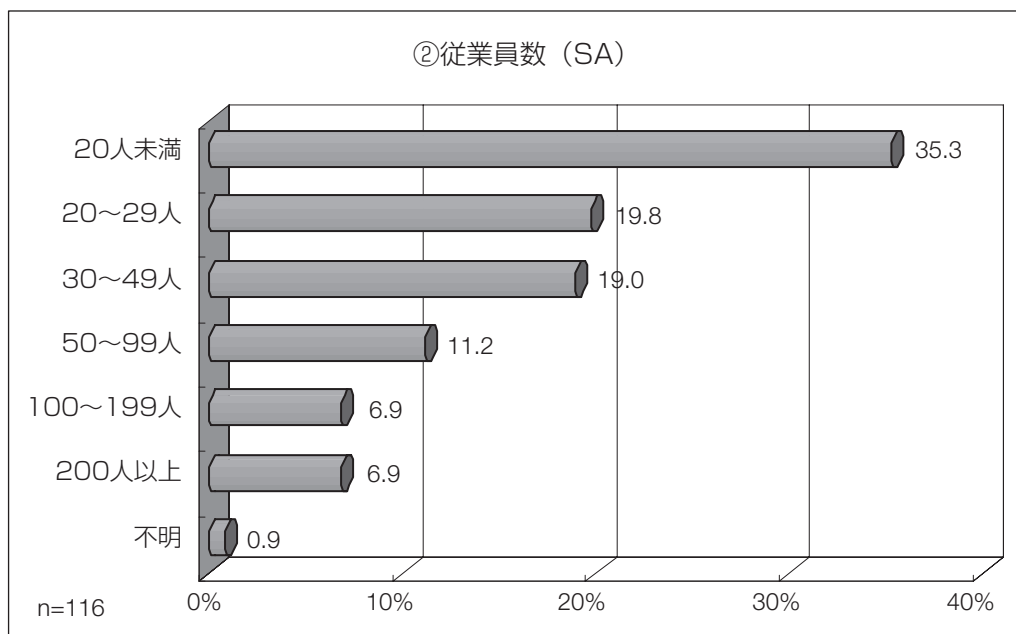
#### ① 業種 (SA)

業種は、「製造業」が43.1%と最も高く、次いで「建設業」(14.7%)、「卸売・小売業」・「医療、福祉」(いずれも9.5%)となっています。



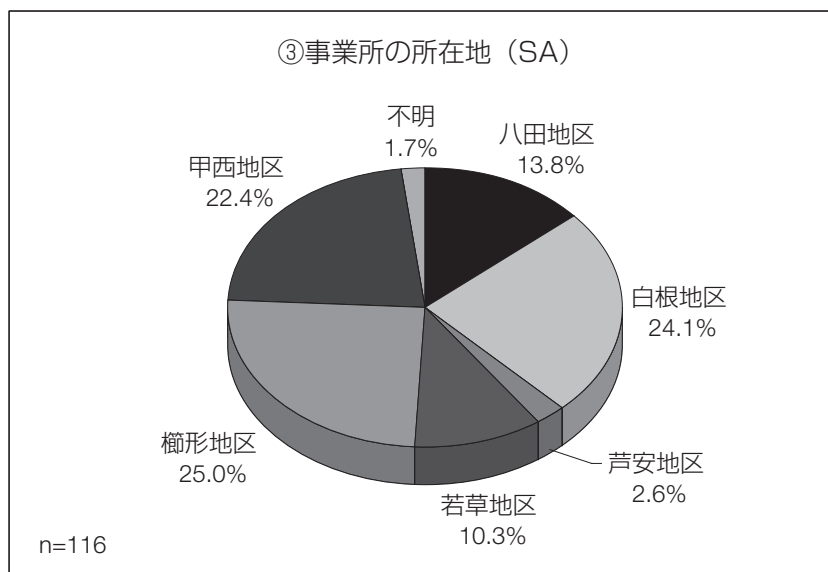
## ② 従業員数 (SA)

従業員数は「20人未満」が35.3%と最も高く、次いで「20～29人」(19.8%)、「30～49人」(19.0%)となっています。



## ③ 事業所の所在地 (SA)

事業所の所在地は、八田地区 13.8%、白根地区 24.1%、芦安地区 2.6%、若草地区 10.3%、櫛形地区 25.0%、甲西地区 22.4%となっています。

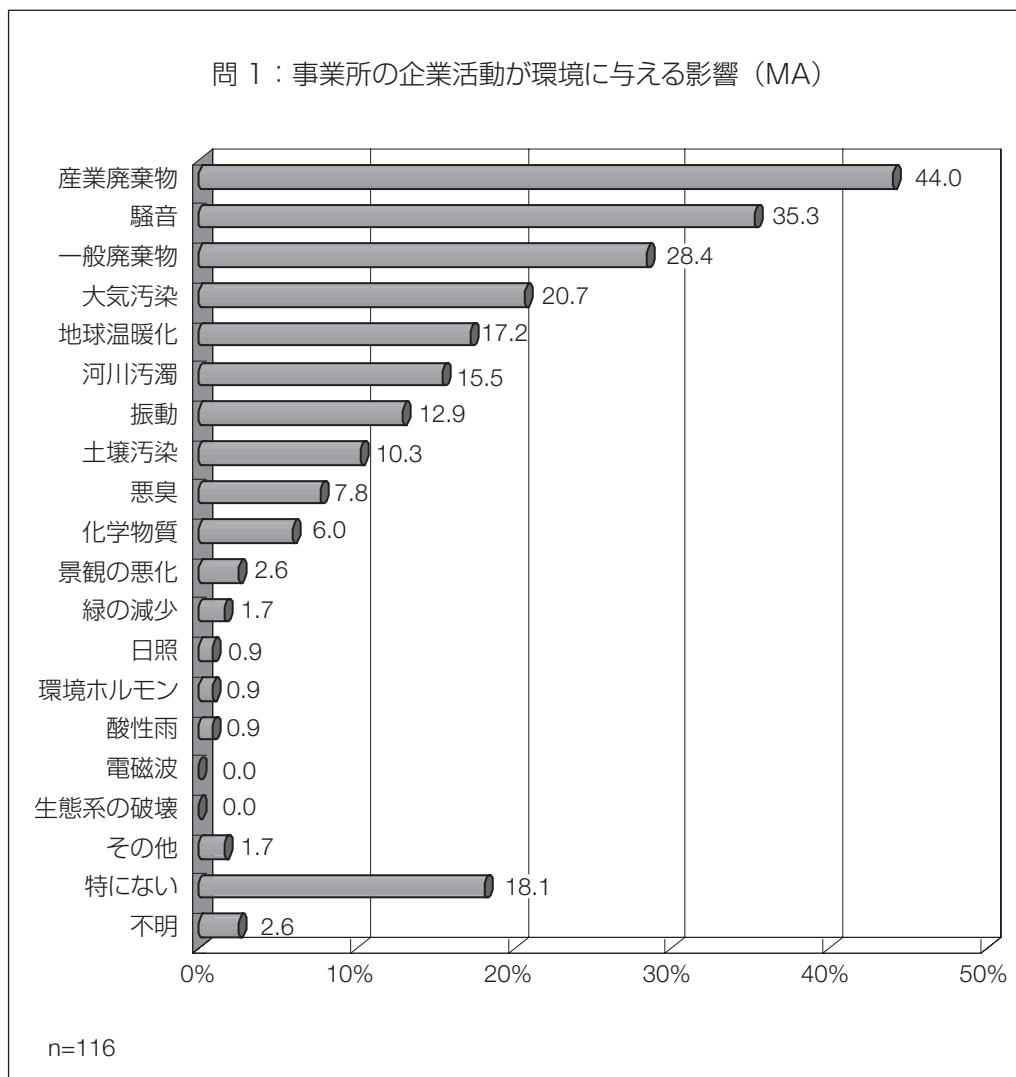




## (2) アンケート結果

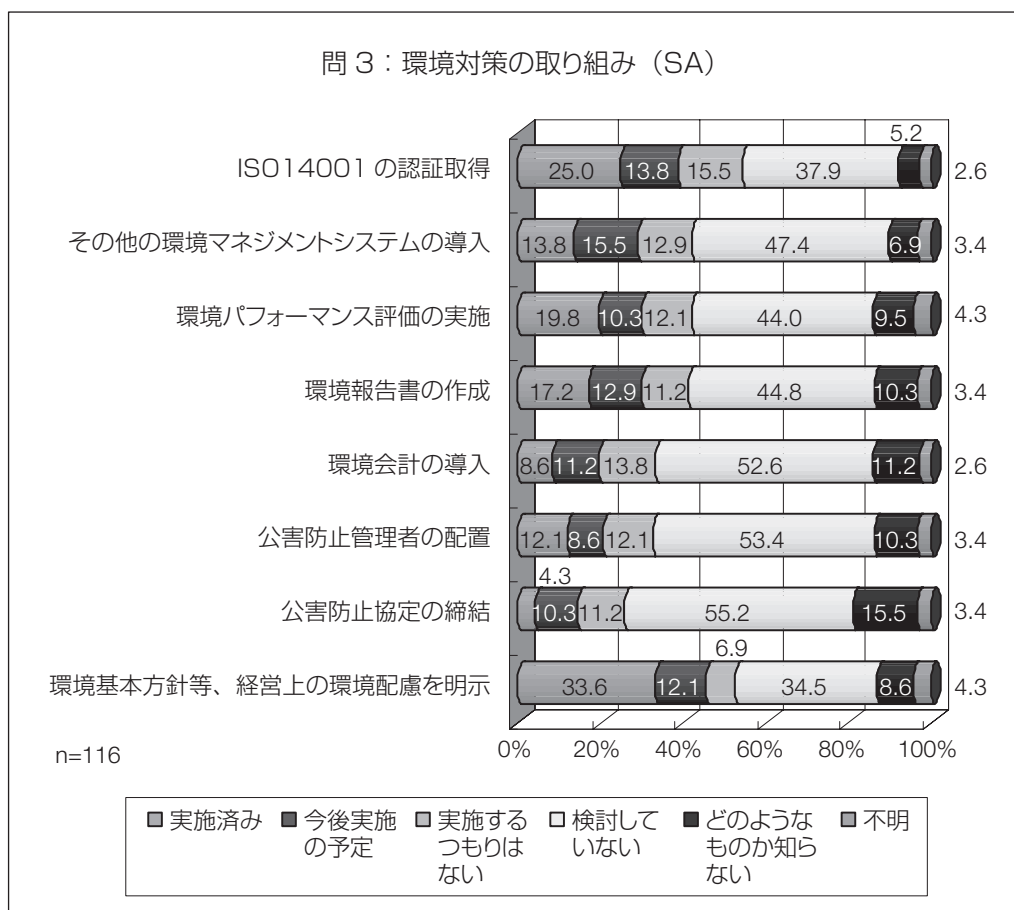
### 問1 企業活動が環境に与える影響 (MA)

事業所の企業活動が環境に与える影響については、「産業廃棄物」が44.0%と最も高く、次いで「騒音」(35.3%)、「一般廃棄物」(28.4%)となっています。



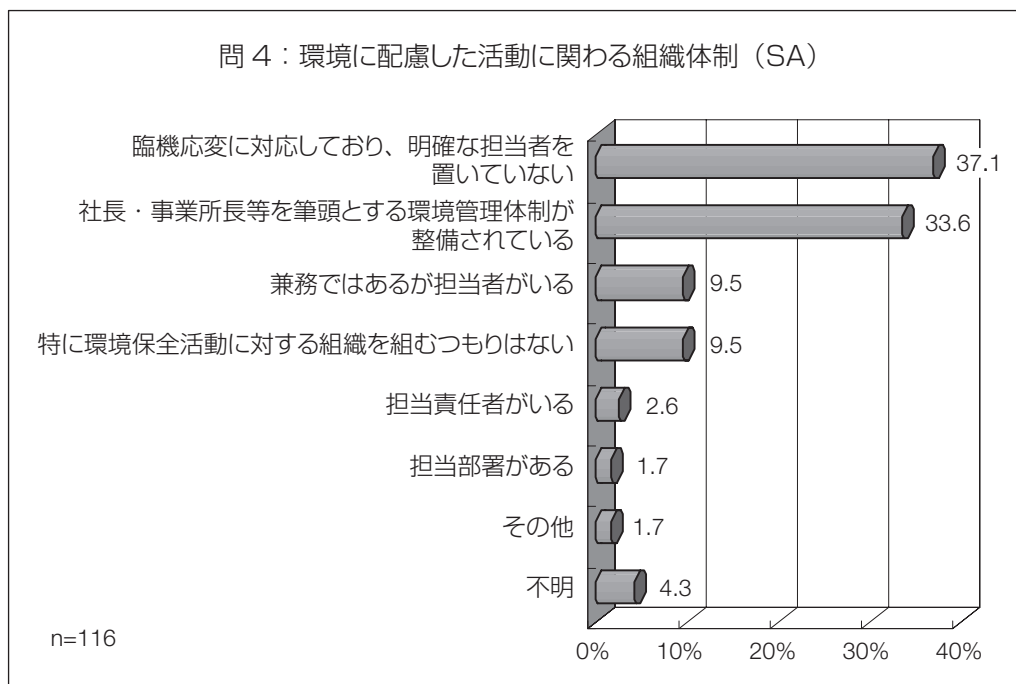
### 問3 環境対策の取り組み（SA）

環境に配慮した取り組みについて、「実施済み」は「環境基本方針等、経営上の環境配慮を明示」が33.6%と最も高く、次いで「ISO14001の認証取得」（25.0%）、「環境パフォーマンス評価の実施」（19.8%）となっています。



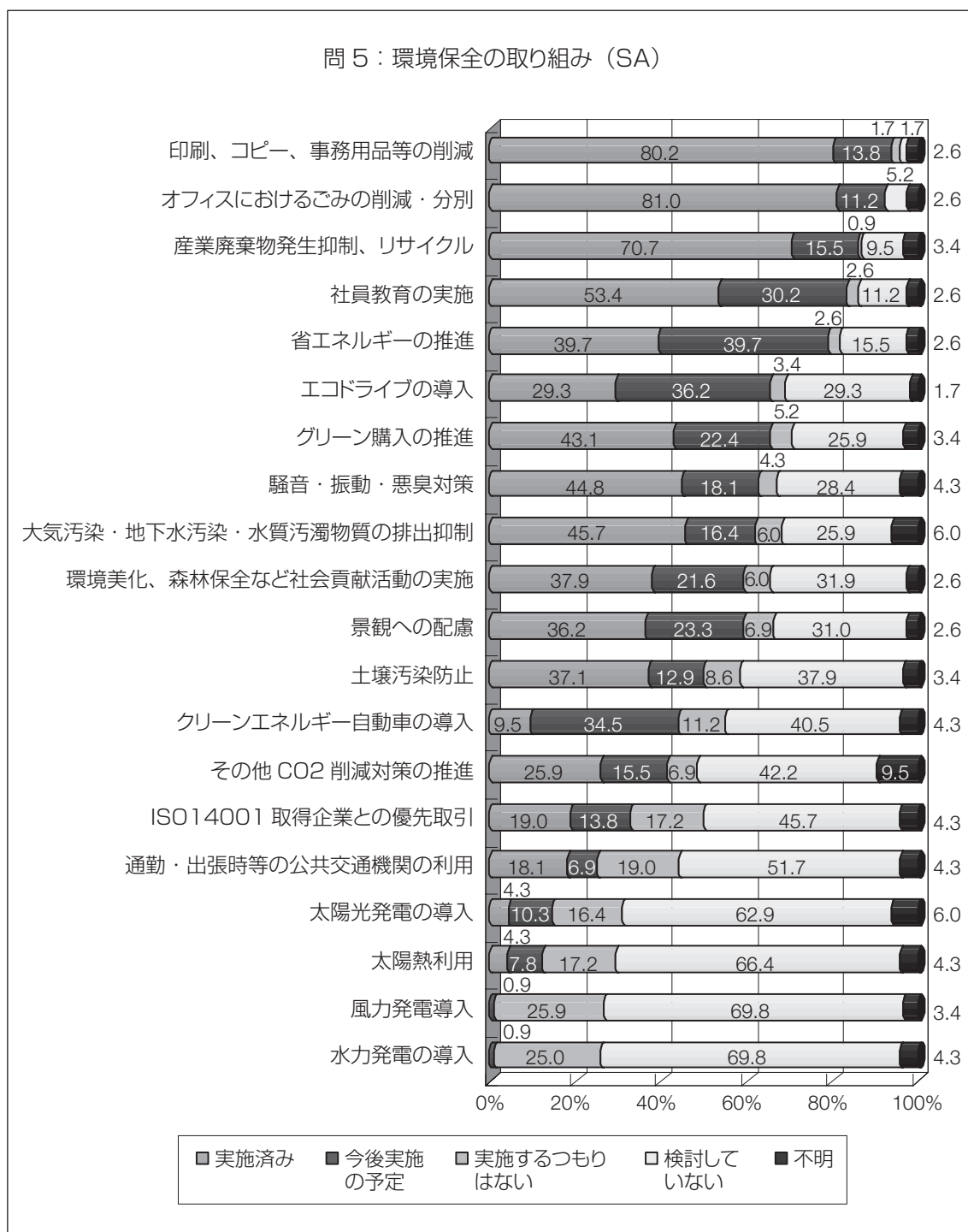
#### 問4 環境に配慮した活動に関わる組織体制（SA）

環境に配慮した活動に関わる組織体制については、「臨機応変に対応しており、明確な担当者を置いていない」が37.1%と最も高く、次いで「社長・事業所長等を筆頭とする環境管理体制が整備されている」（33.6%）となっています。



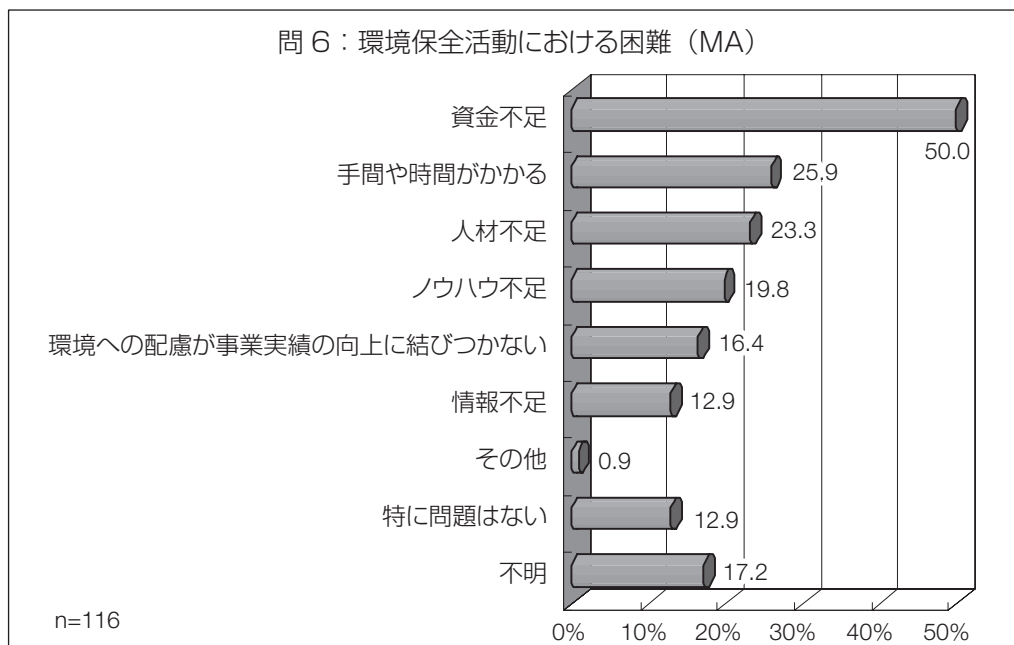
## 問5 環境保全の取り組み（SA）

環境保全の取り組みについて、「実施済み」「今後実施の予定」を合わせた割合は「印刷、コピー、事務用品等の削減」が94.0%と最も高く、次いで「オフィスにおけるごみの削減・分別」（92.2%）、「産業廃棄物発生抑制、リサイクル」（86.2%）となっています。



## 問6 環境保全活動における困難（MA）

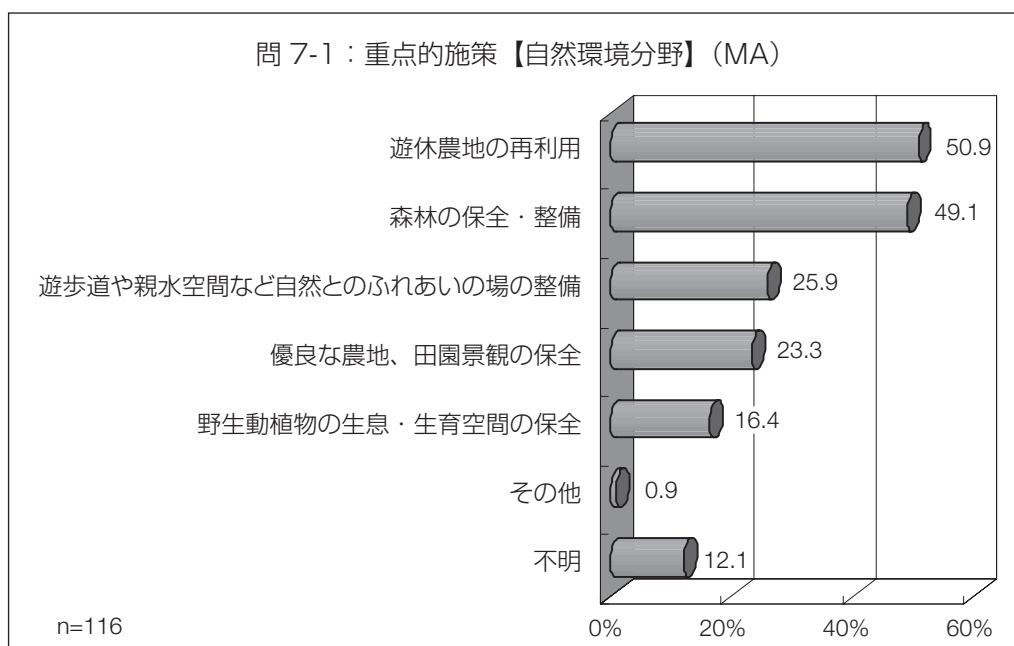
環境保全活動を実施または導入するにあたって妨げとなることについては、「資金不足」が50.0%と最も高く、次いで「手間や時間がかかる」（25.9%）、「人材不足」（23.3%）となっています。



## 問7 重点的に進めるべき施策（MA）

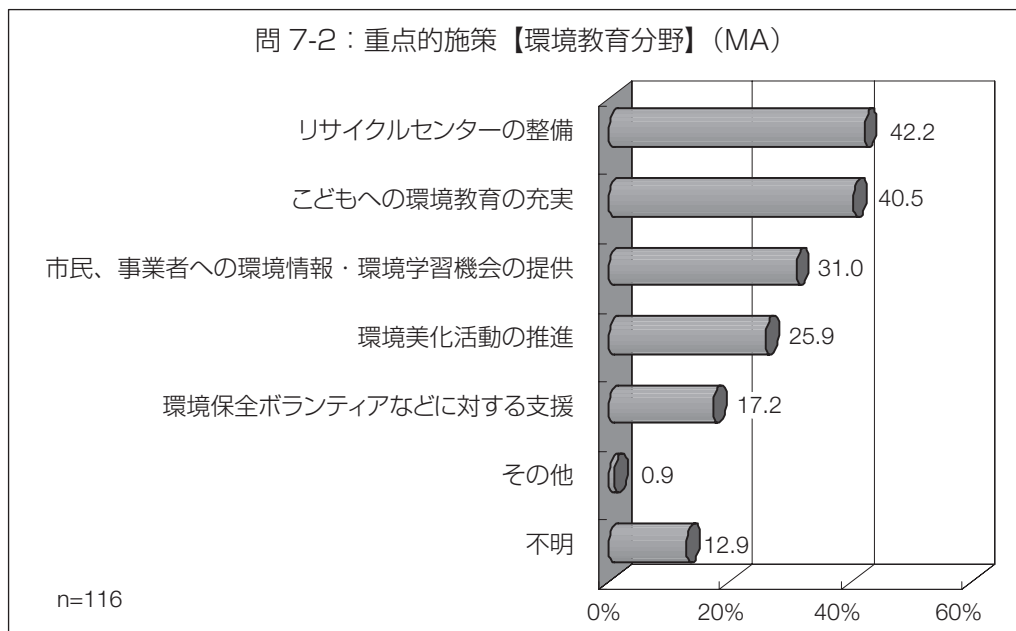
### 【自然環境分野】

自然環境分野での重点的な施策については、「遊休農地の再利用」が50.9%と最も高く、次いで「森林の保全・整備」（49.1%）、「遊歩道や親水空間など自然とのふれあいの場の整備」（25.9%）となっています。



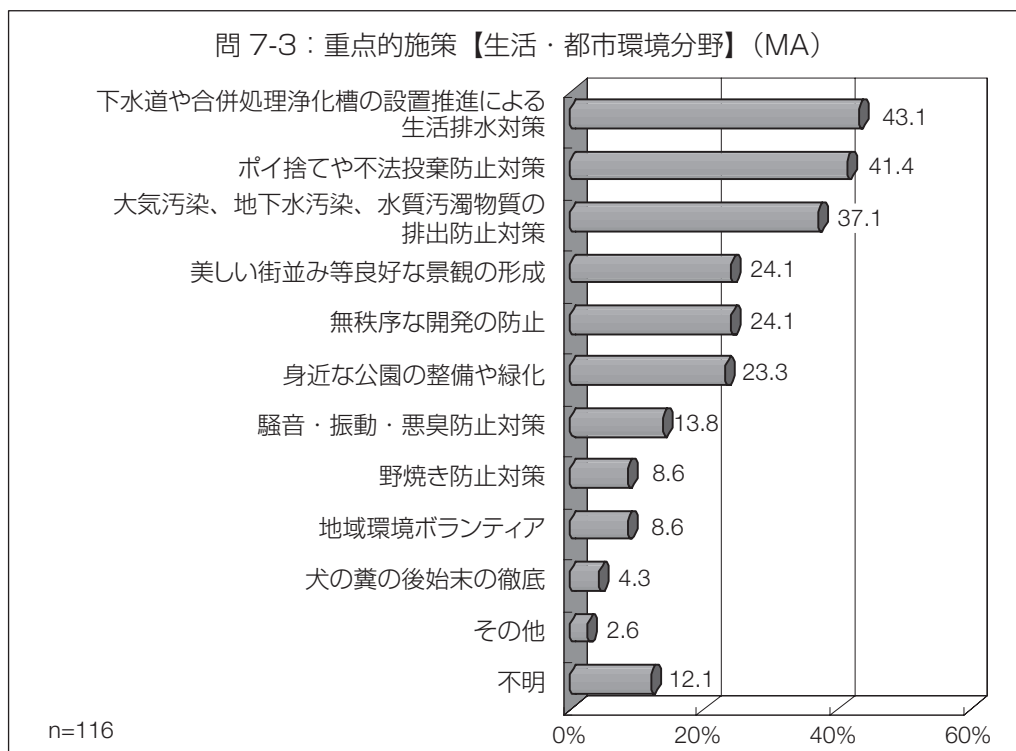
### 【環境教育分野】

環境教育分野での重点的な施策については、「リサイクルセンターの整備」が42.2%と最も高く、次いで「こどもへの環境教育の充実」(40.5%)、「市民、事業者への環境情報・環境学習機会の提供」(31.0%)となっています。



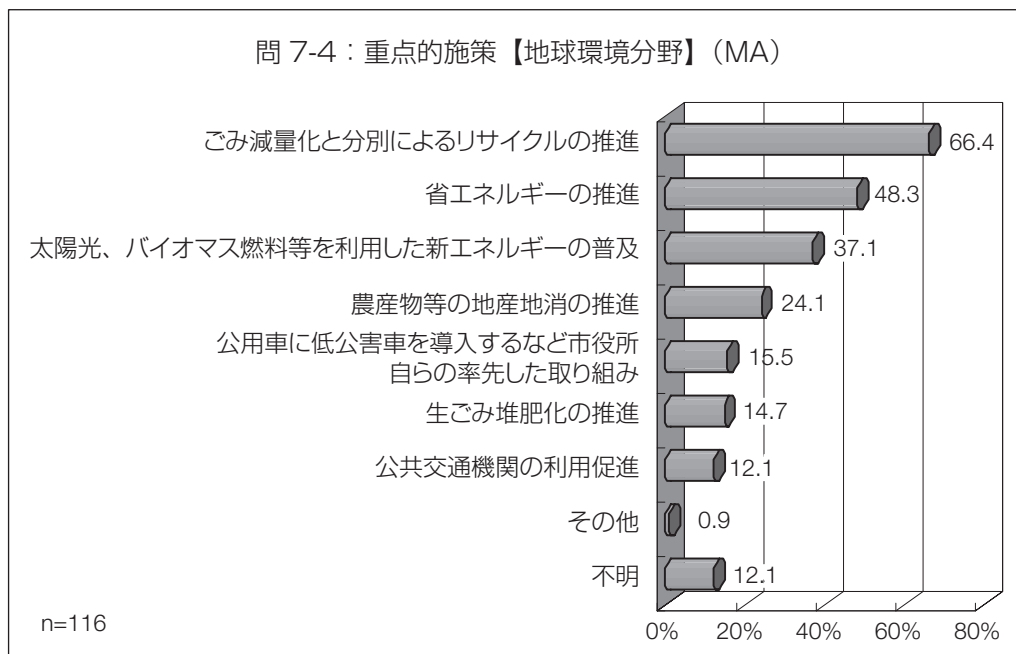
### 【生活・都市環境分野】

生活・都市環境分野での重点的な施策については、「下水道や合併処理浄化槽の設置推進による生活排水対策」が43.1%と最も高く、次いで「ポイ捨てや不法投棄防止対策」(41.4%)、「大気汚染、地下水汚染、水質汚濁物質の排出防止対策」(37.1%)となっています。



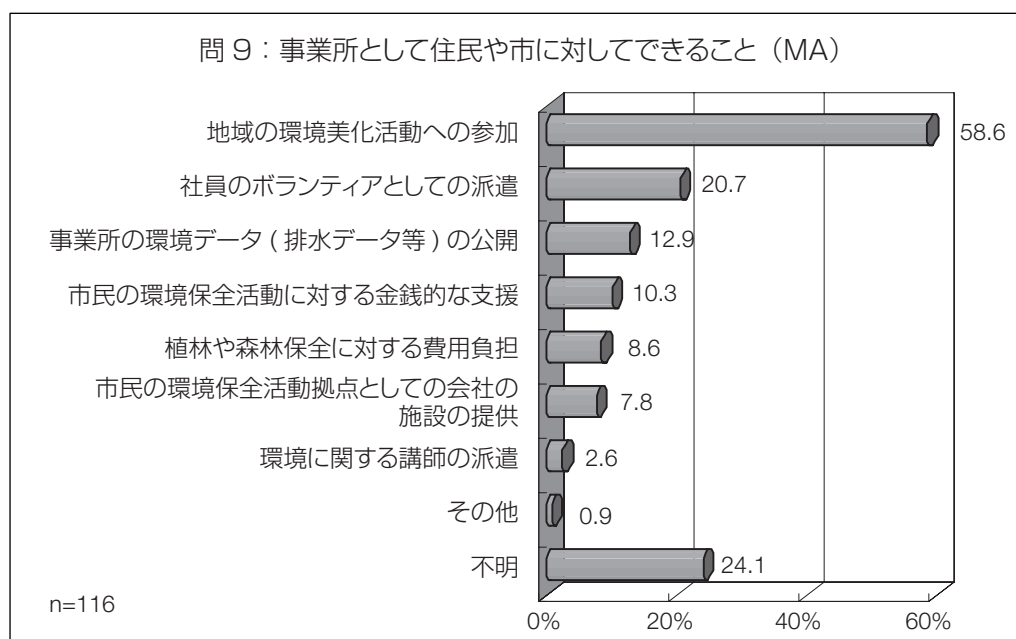
### 【地球環境分野】

地球環境分野での重点的な施策については、「ごみ減量化と分別によるリサイクルの推進」が66.4%と最も高く、次いで「省エネルギーの推進」(48.3%)、「太陽光、バイオマス燃料等を利用した新エネルギーの普及」(37.1%)となっています。



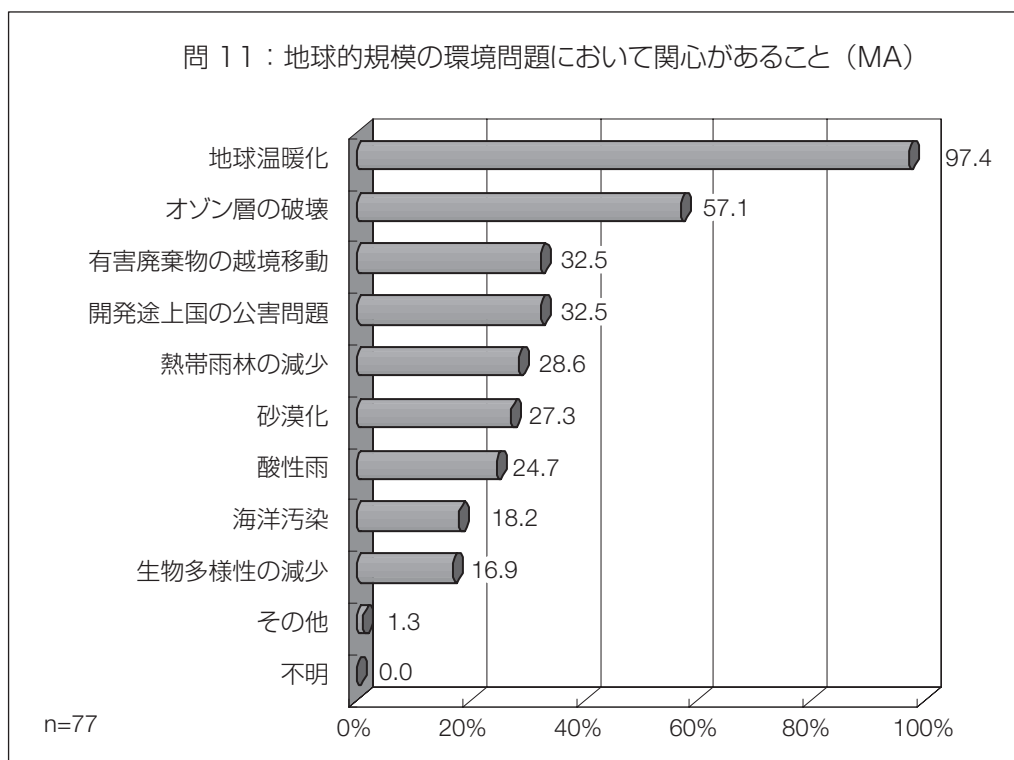
### 問 9 事業所として住民や市に対して出来ること (MA)

事業所として住民や市に対して出来ることについては、「地域の環境美化活動への参加」が58.6%と最も高く、次いで「社員のボランティアとしての派遣」(20.7%)、「事業所の環境データ(排水データ等)の公開」(12.9%)となっています。



## 問 11 地球規模の環境問題において関心があること (MA)

地球規模の環境問題において関心があることは、「地球温暖化」が97.4%と最も高く、次いで「オゾン層の破壊」(57.1%)、「有害廃棄物の越境移動」・「開発途上国の公害問題」(いずれも32.5%) となっています。





## 第3節 児童・生徒アンケート

### 1. 調査の概要

#### (1) 調査の仕様

仕様項目	仕様
調査対象者	市内の小学校6年生、中学校2年生全員
調査方法	教育委員会を通じ各学校に配布・回収
調査期間	平成21年10月1日から10月14日

#### (2) 回収結果

配布数 1598 (小学生822人、中学生776人)

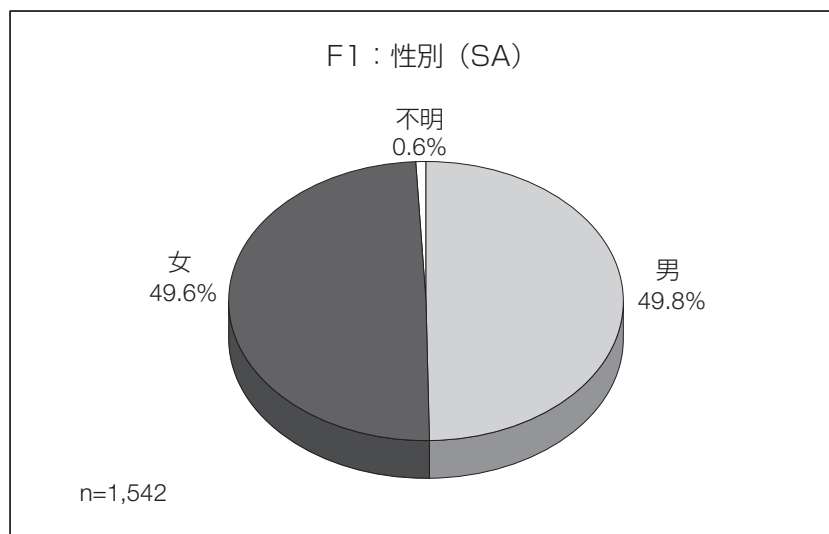
回収数 1542 (回収率96.5%)

### 2. 調査結果

#### (1) 回答者の属性

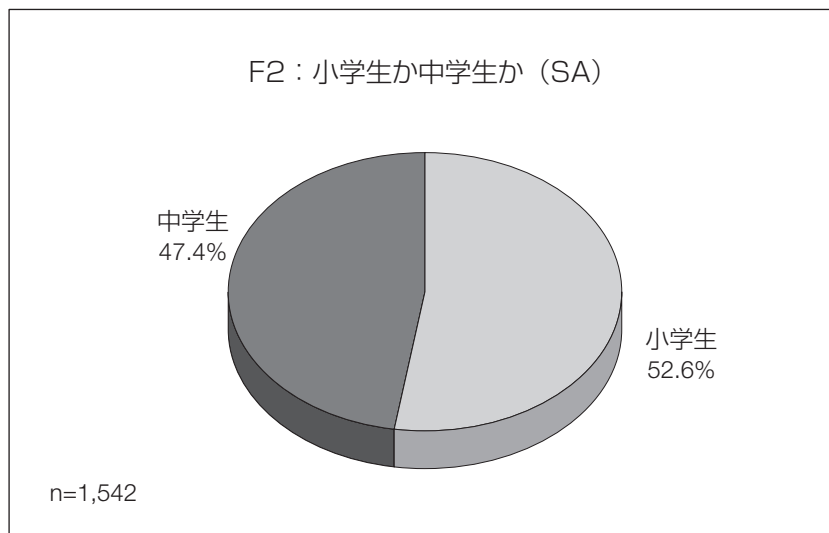
##### F1 性別 (SA)

性別は、「男」が49.8%、「女」が49.6%となっています。



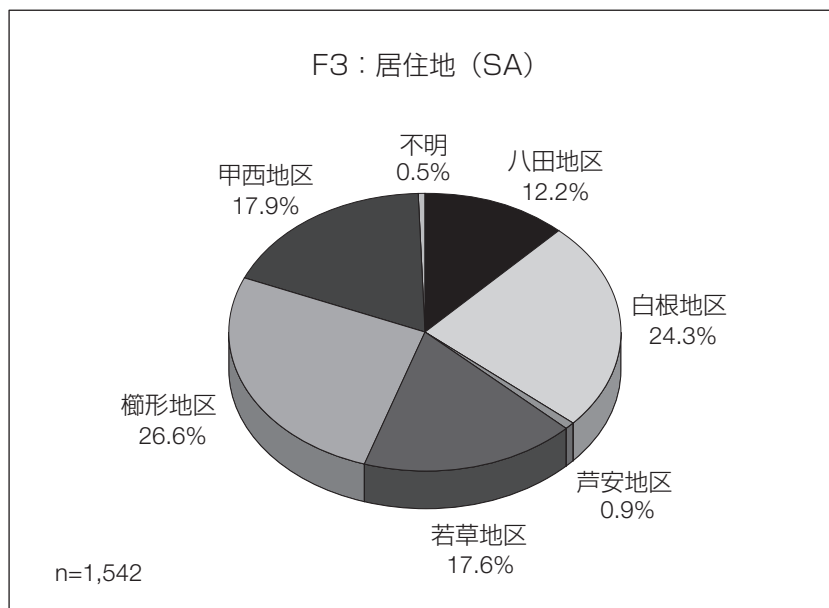
## F2 小学生か中学生（SA）

回答者の内訳は、「小学生」が52.6%、「中学生」が47.4%となっています。



## F3 居住地（SA）

居住地は、八田地区 12.2%、白根地区 24.3%、芦安地区 0.9%、若草地区 17.6%、櫛形地区 26.6%、甲西地区 17.9%となっています。

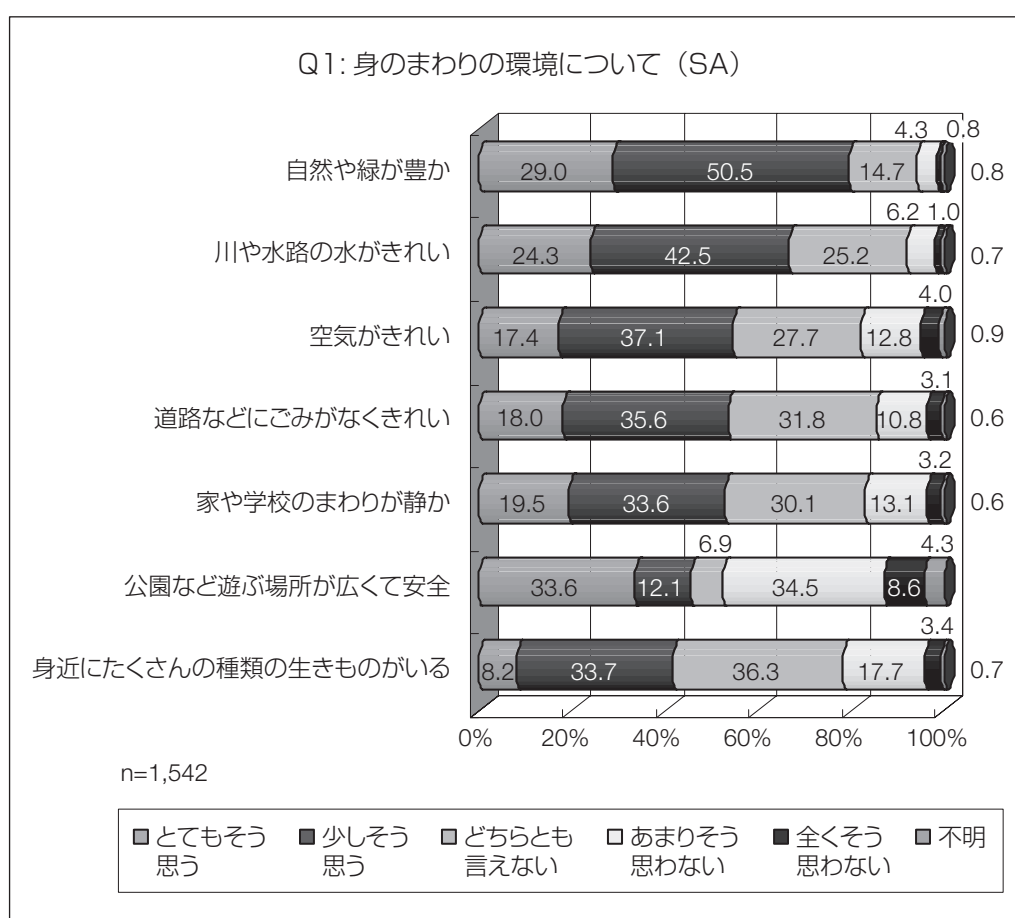


## (2) アンケート結果

### 問1 身のまわりの環境について (SA)

身のまわりの環境について、「とてもそう思う」「少しそう思う」を合わせた割合は、「自然や緑が豊か」が79.5%と最も高く、次いで「川や水路の水がきれい」(66.8%)、「空気がきれい」(54.5%)となっています。

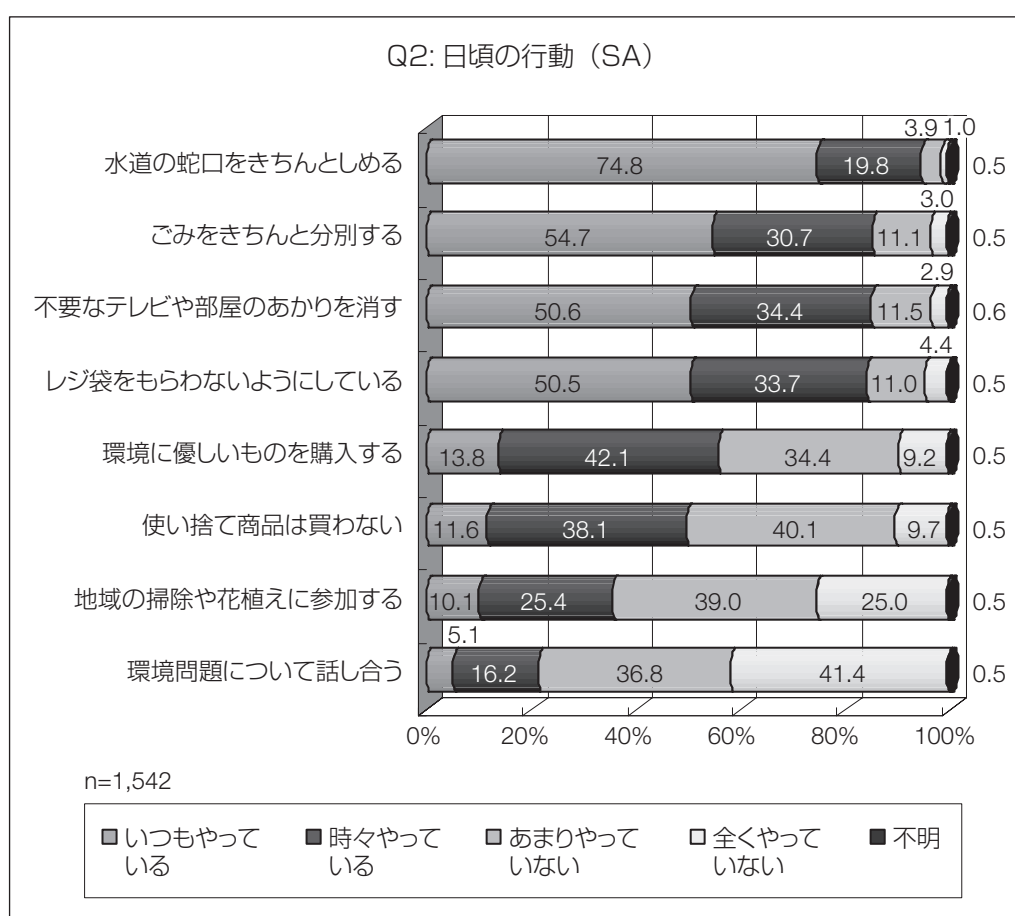
また、「全くそう思わない」「あまりそう思わない」を合わせた割合は、「公園など遊ぶ場所が広くて安全」が43.1%と最も高くなっています。



## 問2 日頃の行動 (SA)

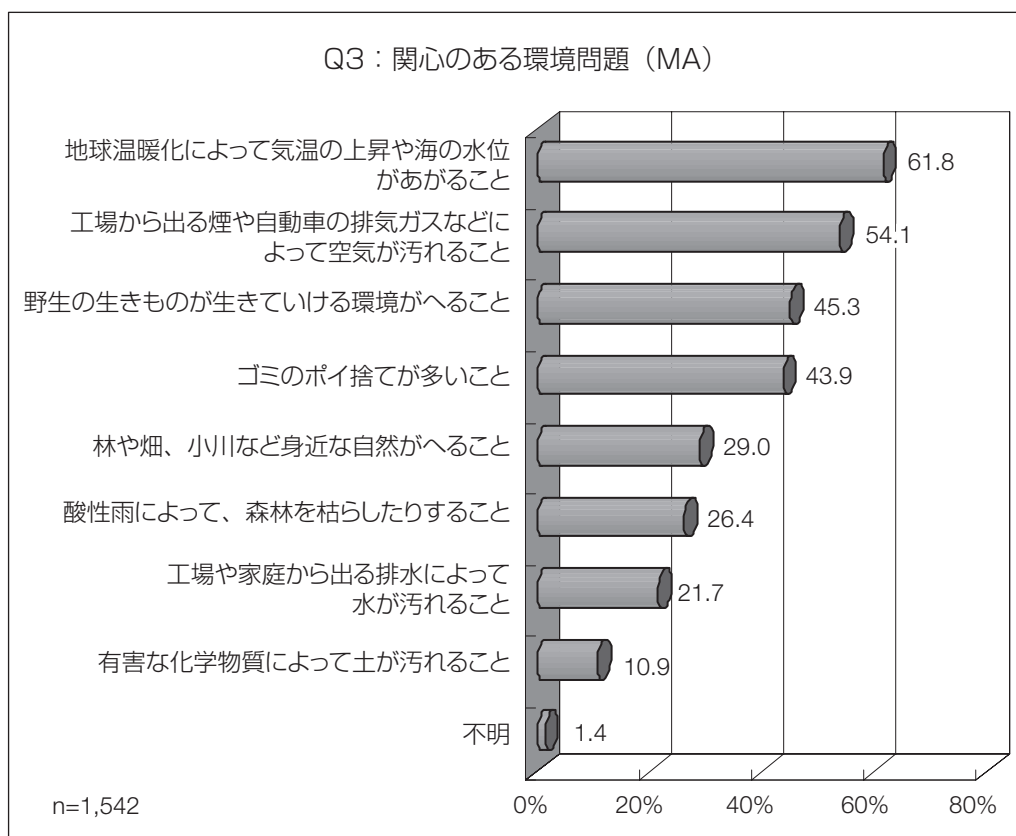
日頃の行動について、「いつもやっている」「時々やっている」を合わせた割合は、「使わないときは、水道の蛇口をきちんとしめる」が94.6%と最も高く、次いで「ゴミを、燃えるゴミ、燃えないゴミ、資源ゴミ（あきかん、ペットボトル、古新聞など）に、きちんと分別する」（85.4%）、「使わないときは、テレビや部屋などのあかりを消す」（85.0%）となっています。

また、「全くやっていない」「あまりやっていない」を合わせた割合は、「家族や友達などと環境問題について話し合う」が78.2%と最も高くなっています。



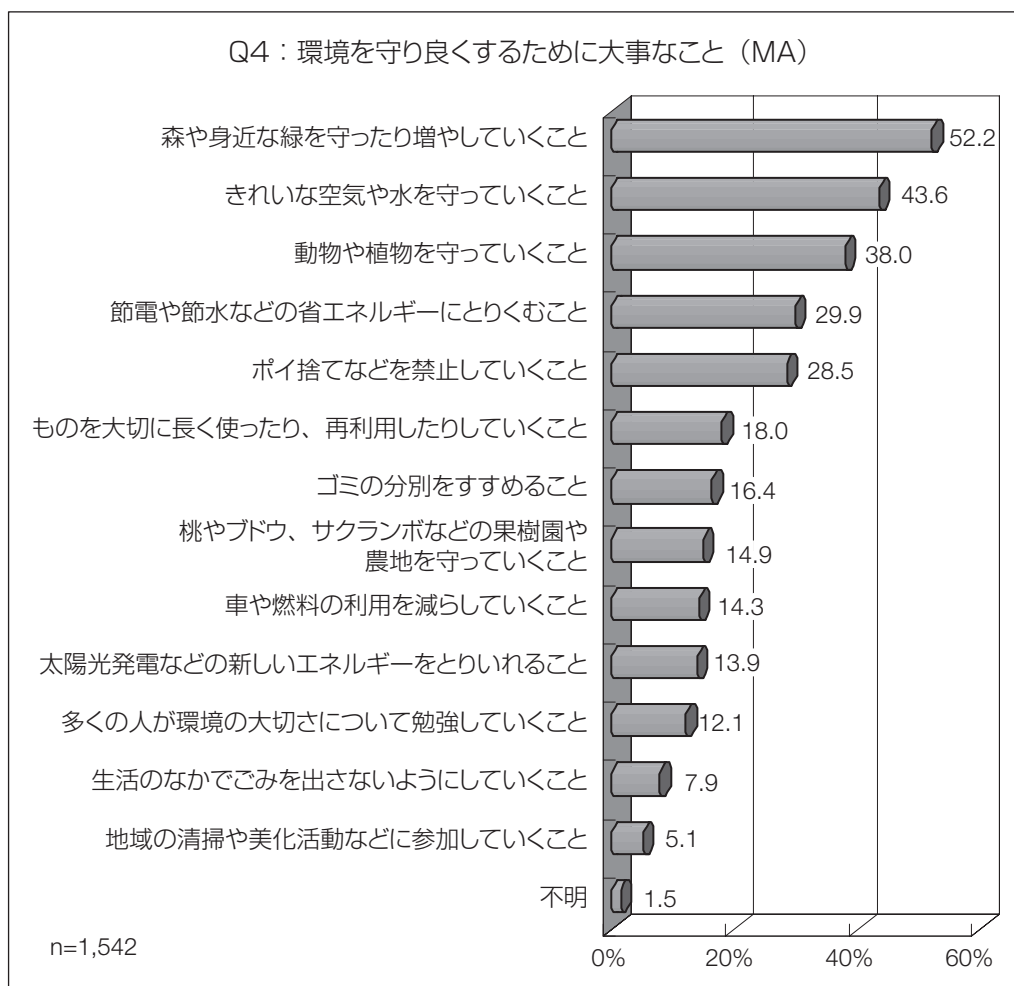
### 問3 関心のある環境問題 (MA)

関心を持っている環境問題については、「地球温暖化によって気温の上昇や海の水位があがること」が61.8%と最も高く、次いで「工場から出る煙や自動車の排気ガスなどによって空気が汚れること」(54.1%)、「野生の生きものが生きていける環境がへること」(45.3%) となっています。



#### 問4 環境を守り良くするために大事なこと (MA)

南アルプス市の環境を守り良くするために大事なことについては、「森や身近な緑を守ったり増やしていくこと」が52.2%と最も高く、次いで「きれいな空気や水を守っていくこと」(43.6%)、「動物や植物を守っていくこと」(38.0%)となっています。



## 第4節 滞在者アンケート

### 1. 調査の概要

#### (1) 調査の仕様

仕様項目	仕 様
調 査 対 象 者	市内の観光地等への来訪者 100 人（市民を除く）
調 査 方 法	登山基地、幹線道路休憩施設等での対面アンケート

#### (2) 調査地点、サンプル数

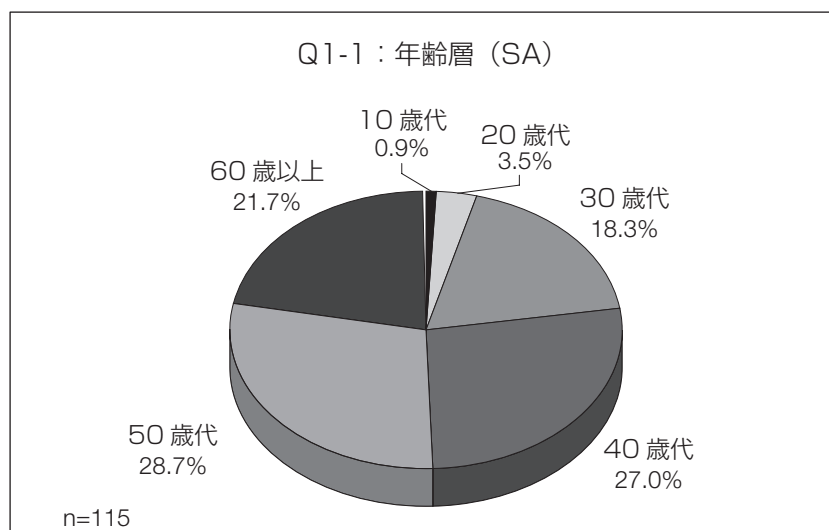
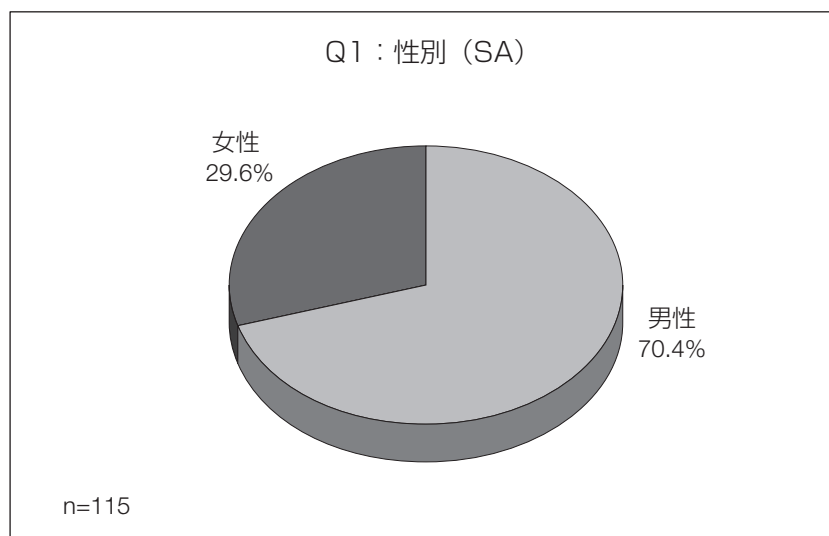
調査地点	調査日	サンプル数
市営芦安駐車場	平成 21 年 9 月 20 日	59
ハッピーパーク	平成 21 年 10 月 12 日	3
道の駅しらね	平成 21 年 10 月 12 日	53

## 2. 調査結果

### (1) 回答者の属性

#### Q1 性別・年齢 (SA)

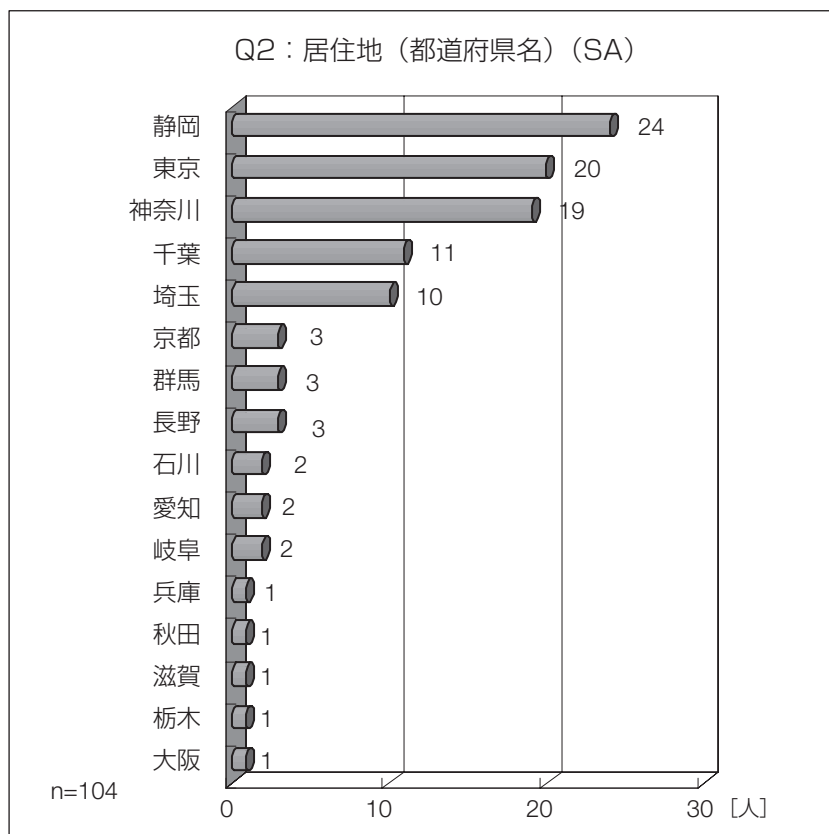
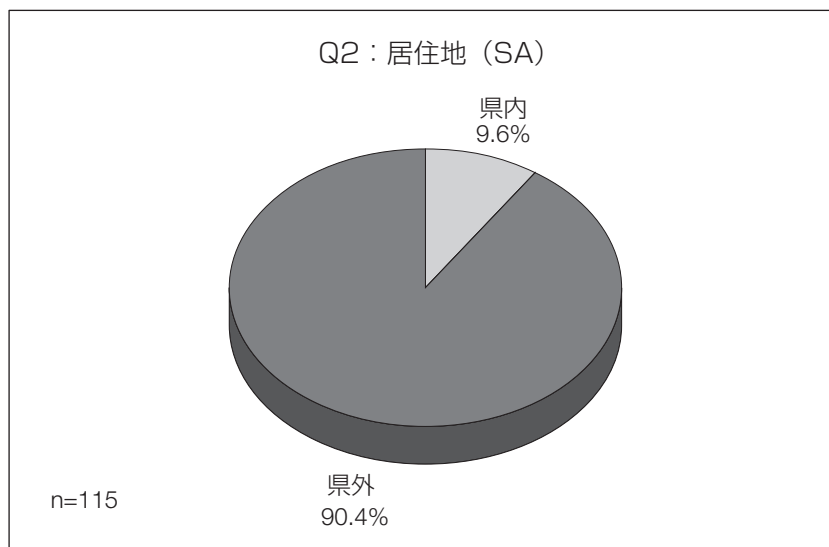
性別は、「男性」が70.4%、「女性」が29.6%となっています。年齢は、「50歳代」が28.7%と最も高く、次いで「40歳代」(27.0%)、「60歳以上」(21.7%)となっています。





## Q2 居住地 (SA)

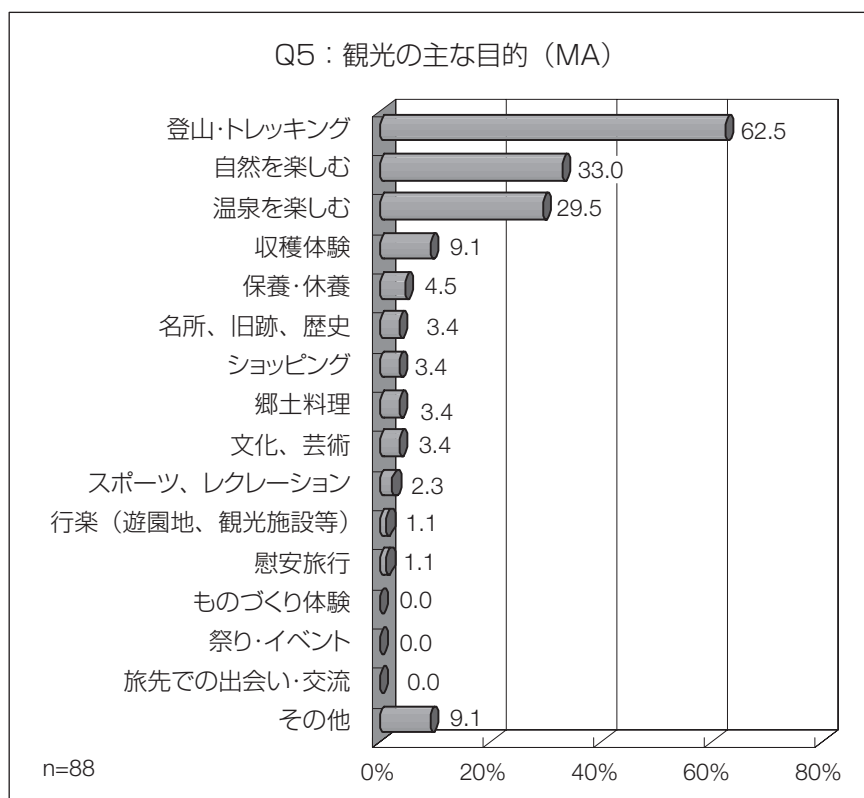
居住地は、「県内」が9.6%、「県外」が90.4%となっています。また、県外では「静岡」が最も多く、次いで「東京」、「神奈川」となっています。



## (2) アンケート結果

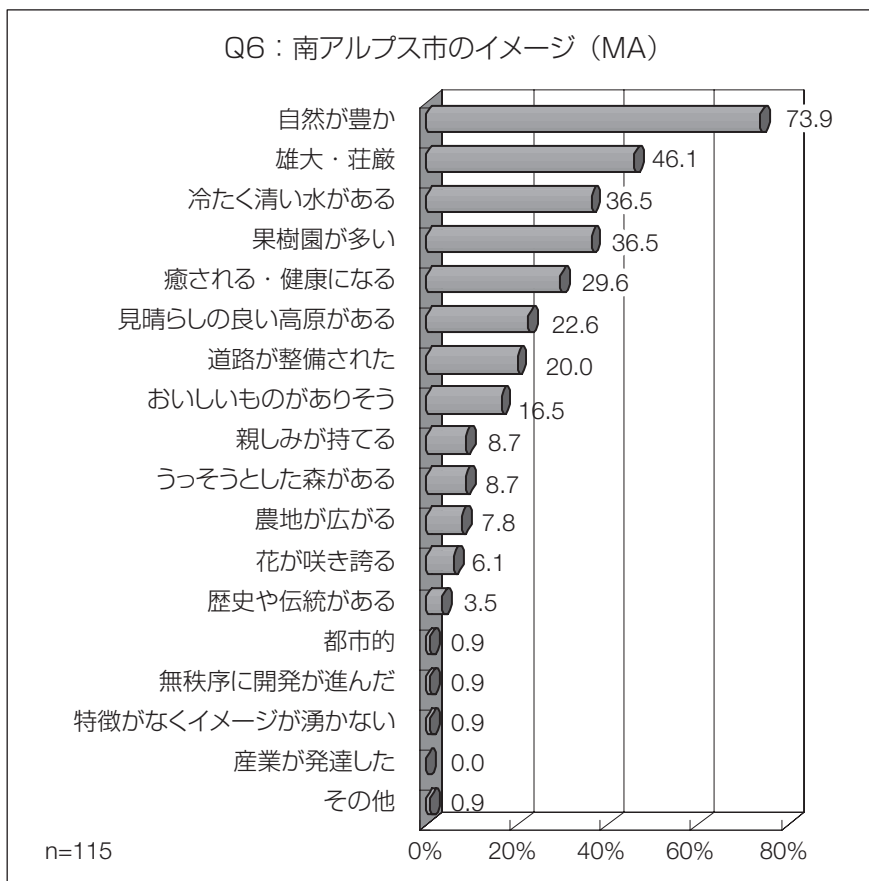
### Q5 観光の目的 (MA)

観光で訪れた方の主な目的は、「登山・トレッキング」が62.5%と最も高く、次いで「自然を楽しむ」(33.0%)、「温泉を楽しむ」(29.5%)となっています。



## Q6 南アルプス市のイメージ (MA)

南アルプス市のイメージについては、「自然が豊か」が73.9%と最も高く、次いで「雄大・荘厳」(46.1%)、「冷たく清い水がある」「果樹園が多い」(いずれも36.5%)となっています。



## Q7 南アルプス市の環境について（SA）

南アルプス市の環境について、「とてもそう思う」「やや思う」を合わせた割合は、「空気がきれい」が97.4%と最も高く、次いで「自然が豊か」（94.8%）、「川や水路の水がきれい」（83.5%）となっています。

